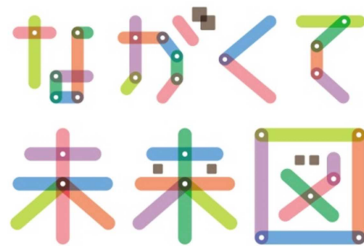


**第 6 次長久手市総合計画（ながくて未来図）
基本構想【たたき台】**



**平成 30 年●月
長久手市**

市長あいさつを掲載予定

目次

第1章	はじめに	1
1	策定の趣旨	1
2	総合計画とは	1
(1)	計画の位置づけ	2
(2)	計画の構成	4
(3)	計画の期間	5
第2章	長久手市をとりまく状況	7
1	長久手市をとりまく状況（外部要因）	7
(1)	超高齢・人口減少社会の到来	7
(2)	地域共生社会の実現	7
(3)	人生100年時代の到来	7
(4)	雇用・労働環境の確保	7
(5)	情報化・デジタル化の進展	8
(6)	安心・安全の確保	8
(7)	観光・交流の拡大	8
(8)	地球環境問題	8
(9)	地域における自立経営	8
2	長久手市の特性と課題（内部要因）	9
(1)	長久手市の現況	9
(2)	財政状況	17
(3)	市民の声	18
3	まとめ	22
第3章	目指す将来像	26
1	将来像	26
2	基本目標	27
	基本目標1 「やってみたい」でつながるまち	28
	基本目標2 子どもが元気に育つまち	30
	基本目標3 みんなでみらいへつなぐみどりはまちの宝物	32
	基本目標4 みんながつながり、誰もがいきいきと安心して暮らせるまち	34
	基本目標5 いつでもどこでもだれとでも広がる幸せの和	36
	基本目標6 あえて、歩いてみたくなるまち	38
	基本目標7 職員が飛び出すまち	40
3	人口フレーム	43
4	土地利用構想	44

第1章 はじめに

1 策定の趣旨

～2050年に向け、市民主体のまちづくり文化を育む種を蒔こう！～

本市では、1974年から5次に渡って総合計画を策定し、土地区画整理事業を始めとする都市基盤整備により住宅都市として骨格を固め、2005年の愛・地球博の開催を契機に多様な交流を生み出す交流都市として発展してきました。その間、1974年当時は1万人程度だった人口も現在は約6万人に達するほどになりました。

しかし、日本全体で見ると、2008年が「人口減少元年」といわれ、人口が大きく減少する時代を迎えています。今は人口が増加している本市でも、いずれは人口減少が訪れ、高齢化は一層進み、厳しい財政運営を強いられることとなります。

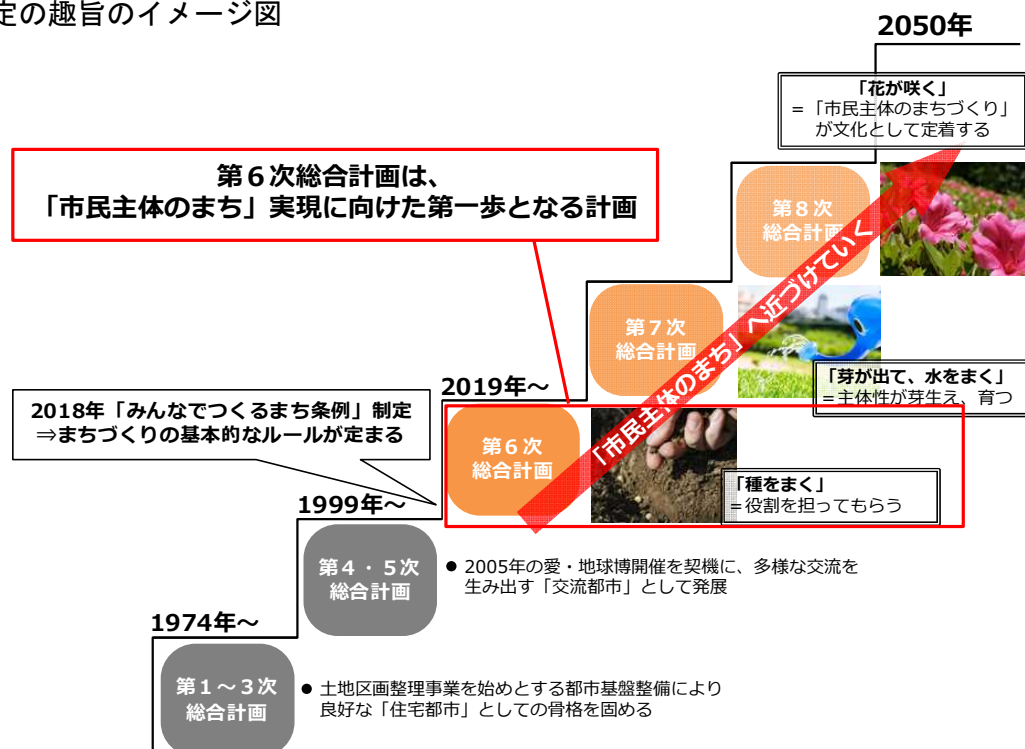
そのような時代に対応するには、今のうちから時間をかけて、今までの行政主導のまちづくりから市民主体のまちづくりへ転換する必要があります。

第6次総合計画は、2050年という未来には老若男女がまちづくりに関わることが当たり前になり、市民主体のまちづくりが文化として定着するよう、多くの市民に役割を担ってもらう（＝種を蒔く）ことを主眼に策定するものです。

《推進方針》

- 小学校区ごとに地域住民や地域の多様な主体が、地域で役割と居場所があるまちを根底に、施策を推進していきます。
- 市民の力で実施が可能と思われる事業から、順次、市民に委ねていきます。
- 施策の推進にあたっては、5つの視点（笑顔・あいさつ・役割・つながり・愛着）を大切にします。

■策定の趣旨のイメージ図



2 総合計画とは

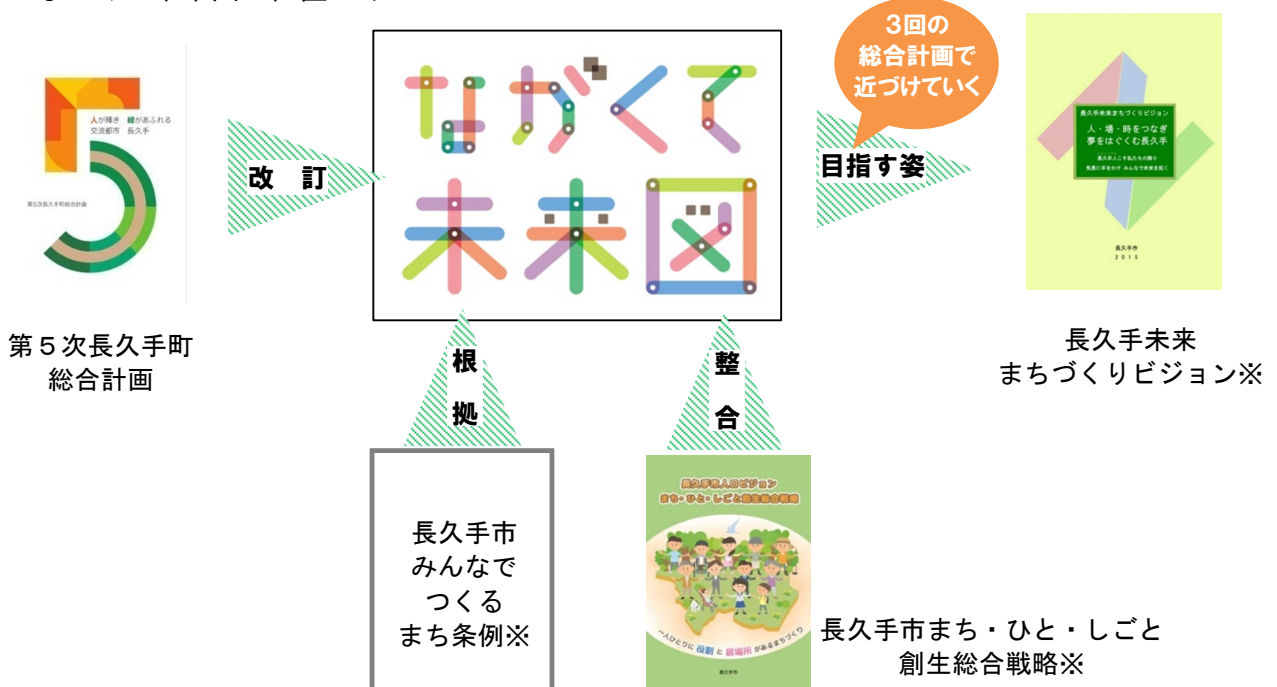
(1) 計画の位置づけ

ながくて未来図とは、長久手市が目指す10年後の姿やそのための取組を示す「まちづくりの指針」となる大切な計画であり、「みんなでつくるまち条例」第17条の規定により、計画的な市政運営を行うため、策定するとともに、計画の実行にあたっては条例の趣旨に則ります。

また、本市は、2050年という長期を見据えた「長久手未来まちづくりビジョン」を2015年10月に策定しており、ながくて未来図を含め、3度の総合計画策定の機会をとらえ具体的な取組を位置づけ、本ビジョンの実現を図ります。

ながくて未来図では、第5次総合計画の必要な部分は継承しつつ、人口減少対策に特化した長久手市まち・ひと・しごと創生総合戦略とも整合を図り策定しており、計画の実行においては、各分野の方針や具体的な取組を示した個別計画と連動し、それぞれの個別計画の実行が、ながくて未来図で描く将来像の実現に結びつくよう取り組みます。

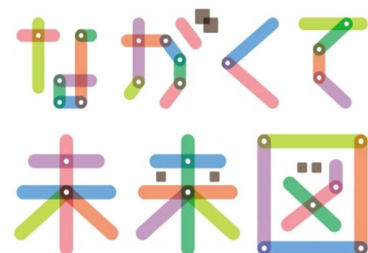
■ながくて未来図の位置づけ



■コラム① 第6次総合計画って愛称があるってホント??

第6次総合計画を市民の皆さんとつくっていくにあたり、多くの方に興味や親しみを持ってもらうため、動物園で新しく生まれる動物の赤ちゃんの愛称を募集するように、総合計画も愛称を決める「総合計画愛称総選挙」を開催しました。

多くの方から愛称の応募があり、投票の結果、総合計画の愛称が「ながくて未来図」に決定しました！



長久手市みんなで作るまち条例とは

本市におけるまちづくりの基本的な事項を定めるとともに、まちづくりの担い手となる市民、議会及び市の役割及び責務を明らかにし、市民が主体的に行動する自治の力を高め、豊かな自然を引き継ぎ、誰もが笑顔で暮らせるまちを実現することを目的としたものです。

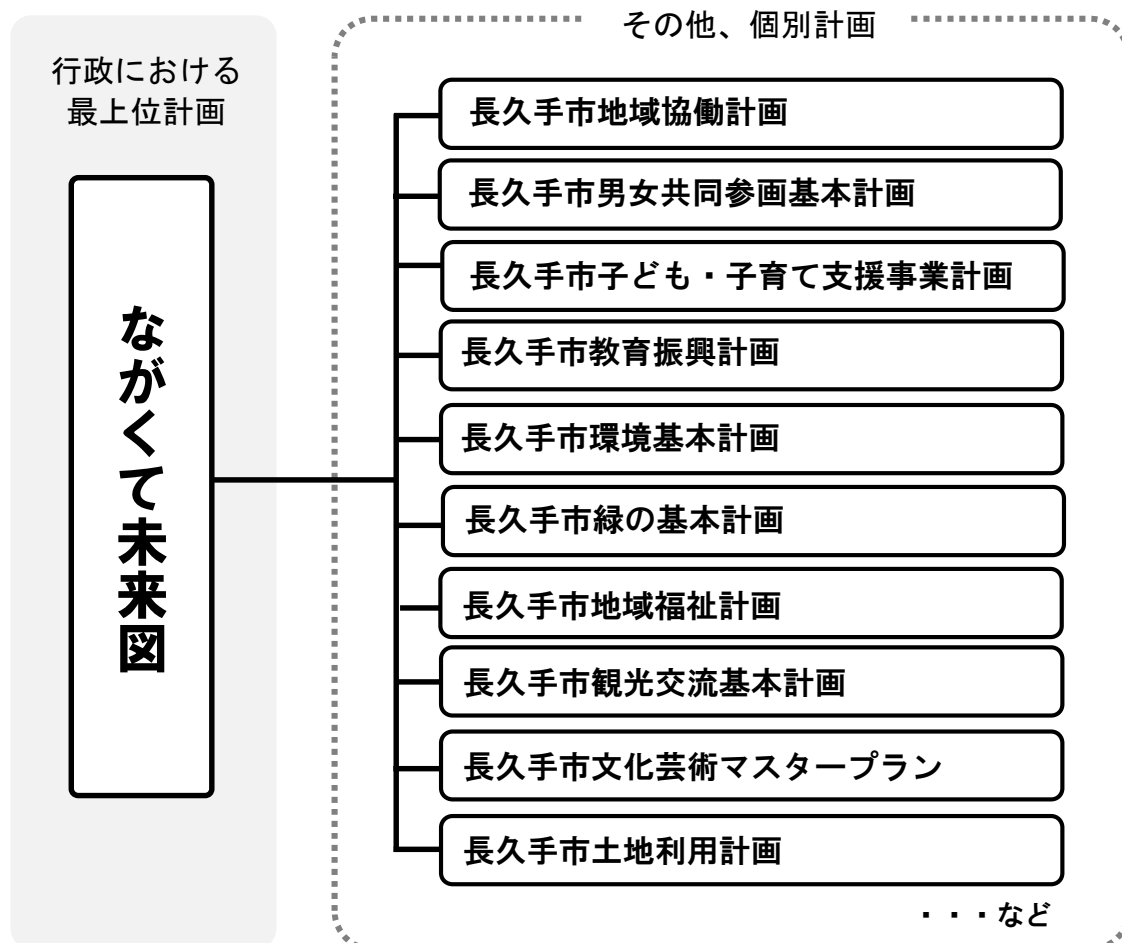
長久手未来まちづくりビジョンとは

本市においてもいづれ進行する人口減少・少子高齢化に、2050年という長期を見据え、今のうちから時間をかけて対応するために、「人・場・時をつなぎ 夢をはぐくむ長久手」を全体テーマにまちづくりの方向性をまとめたものです。

長久手市まち・ひと・しごと創生総合戦略とは

「まち・ひと・しごと創生法（平成26年法律136号）」第10条に基づき、本市の特性に合った、まち・ひと・しごと創生に向けて2015年を初年度とする5か年の目標や施策の基本的方向、具体的な施策を「一人ひとりに役割と居場所があるまちづくり」を根底に据えてまとめたものです。

■ながくて未来図と分野別計画の関係



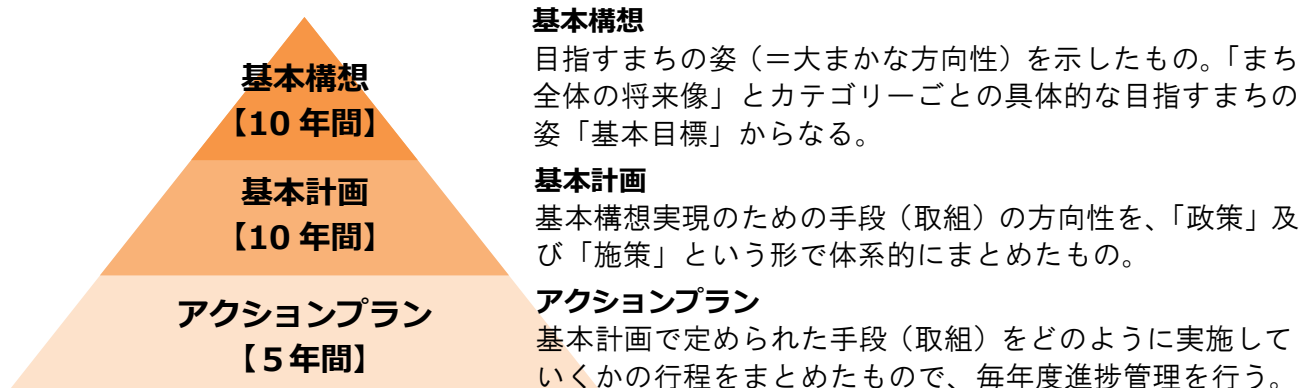
(2) 計画の構成

「ながくて未来図」は、「基本構想」「基本計画」「アクションプラン」の3つの階層で構成されます。また、市民主体のまちづくりを一層推進するために、基本構想実現のため市民で実行する取組をまとめた「市民まちづくりプラン」をつくりました。

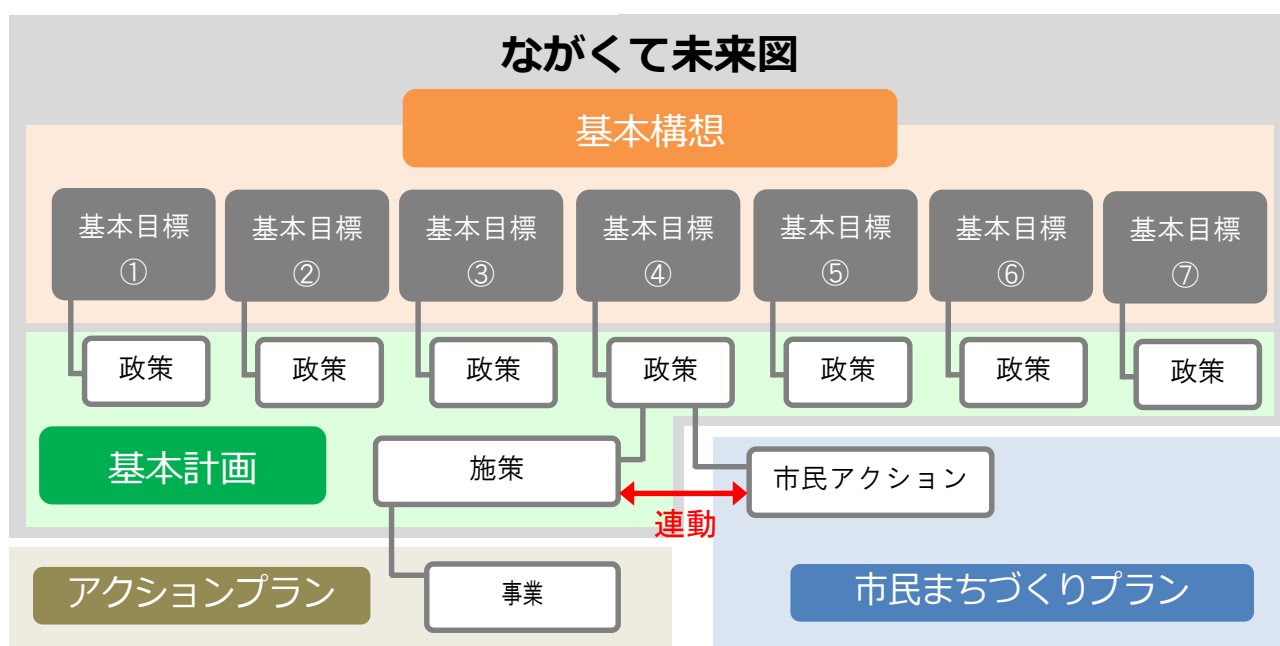
「基本計画」と「市民まちづくりプラン」は、基本構想実現のための両輪として連動していきます。各基本目標及び政策に沿って、基本計画では施策・アクションプラン、市民まちづくりプランでは市民アクションを実行していくことにより、基本構想の実現を目指します。

また、ながくて未来図は、網羅的にあらゆる施策を位置付けた計画とするのではなく、未来に視点を置き、目指すまちの姿を実現するための施策を「選択と集中」し、重点的なものを位置付けています。なお、掲載のない施策についても通常業務として、適切かつ着実に実施していきます。

■ながくて未来図の構成



■ながくて未来図と市民まちづくりプランの関係



(3) 計画の期間

2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028
基本構想									
基本計画									
アクションプラン (毎年度進捗管理)				中間見直し →		アクションプラン (毎年度進捗管理)			
市民まちづくりプラン									

（４）これまでの長久手市における総合計画

本市ではこれまで、その時々¹の社会情勢や地域課題に対応し、5回にわたり総合計画を策定し、目指すべき方向性を示しながら計画的な行政運営を行ってきました。

第1次総合計画（昭和49年策定）

「みどりと太陽にめぐまれた文教の町」を将来像とし、名古屋市近郊の住宅地として、4つ土地区画整理事業を推進することで人口は2万人を超えました。その一方で、市街地整備にあたっては、「自然との調和」を大切にし、自然環境の良い住宅地としての町の基本をつくりあげてきました。

第2次総合計画（昭和58年策定）

将来像は、第1次から引き続いて、基盤整備を行ってきました。北小学校、南小学校、南中学校などの教育施設を相次いで開校し、平成元年には人口が3万人を超えました。また、都市基盤整備とともに、地域で支え合い、生活にゆとりとうるおいをもたらすまちづくりに努めました。

第3次総合計画（平成2年策定）

将来像を「住んでみたいまち 緑と文化 長久手の創造」とし、みどりの条例を制定し、景観に配慮した良好な都市環境の形成に努めました。その他、住民生活の利便性向上や文化・芸術、国際交流に向けた取り組みも行いました。

また、これまでの計画的な都市形成や様々な取組に加え、新たな市街地整備を開始し、人口もほぼ4万人となりました。

第4次総合計画（平成11年策定）

将来像を「～ひとに活力 まちに魅力～ふれあいひろがる創造のまち 長久手」とし、国際博覧会を支援するために4つの主要プロジェクトを新たに掲げ、特に「農あるくらし」の推進や福祉施策を充実させ人にやさしいまちづくりを推進しました。

この間も人口は増加を続けて約5万人となり、教育施設の充実や地域間交流など、良好な住宅都市から交流都市への転換期として多様な交流に関する取組を推進しました。

第5次総合計画（平成21年策定）

将来像を「人が輝き 緑があふれる 交流都市 長久手」とし、リニモを活用したまちづくりを進め、交流都市としてさらなる発展に努めました。平成24年1月4日には、市政施行を行い、まちの新たな歴史がスタートしました。

市政施行後は、地域の絆づくりをはじめとした市民が幸せを感じられるまちづくりを展開し、まちづくり協議会の設立や地域共生ステーションの整備を進めました。

第2章 長久手市をとりまく状況

1 長久手市をとりまく状況（外部要因）

本市を取り巻く外部要因は、以下のようになっています。国全体においても、難しい局面に置かれていることが分かります。

（1）超高齢・人口減少社会の到来

わが国は、今後人口減少と高齢化、少子化が進むことにより、超高齢・人口減少社会を迎えることが想定されるため、社会保障費の増加や医療・介護サービスなどの需要の急激な増大が懸念されます。

また、現在の人口増加を前提とした社会システムの見直しが必要となっており、公共施設をはじめとした施設や機能の集約化・統廃合など、いかに活力を維持しつつスリム化を図っていくかが課題となります。

（2）地域共生社会の実現

国では、平成28年7月に「我が事・丸ごと」地域共生社会実現本部が設置されました。制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が『我が事』として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて『丸ごと』つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域とともに創っていく地域共生社会の実現が目指されています。

（3）人生100年時代の到来

今後、高齢化が進む一方で、健康寿命が延伸し、我が国は世界一の長寿社会となり、「人生100年時代」を迎えることが予測されます。そのような長寿社会において、いつでも学び直し・働き直しができる社会が目指されています。

また、個人の価値観やライフスタイルも多様化してきており、心の豊かさや生活の質の向上を求める傾向が強まっています。そのような中で、一人ひとりが価値観やライフスタイルに応じた働き方や暮らし方を選択することができ、個性と能力を十分に発揮できる環境づくりが求められます。

（4）雇用・労働環境の確保

高齢化の進行や団塊の世代の大量退職、生産年齢人口（15～64歳）の減少により労働力人口が減少しつつある中、だれもが安心して働ける雇用・労働環境の確保が求められます。

国などを中心として、女性の活躍推進や、ワークライフバランスの推進、働き方改革など、労働環境の整備に向けた法整備や取り組みなどが徐々に進んでいます。

（５）情報化・デジタル化の進展

情報化の進展は、国際的なネットワーク化が高まる中で、技術革新がより一層進展しており、AI(人工知能)、ICT（情報通信技術）、クラウド、ビッグデータやオープンデータの活用など、産業やビジネス面における情報技術の活用だけでなく、人々の生活面にまで大きな社会的影響を与えつつあり、今後もさらなる高度化が予想されます。

（６）安心・安全の確保

2011年の東日本大震災、2016年の熊本地震など各地で大規模な災害が発生し、多大な被害をもたらしました。この地域においても、南海トラフ巨大地震の危険性が叫ばれています。また、局所的な集中豪雨などによる土砂災害や河川の氾濫等の被害も各地で多発しており、自然災害に対する住民の不安が大きくなっています。

そして、家族形態の変化や地域コミュニティの希薄化などの問題も顕在化しつつあり、子育てや高齢者の見守りなど日常生活での支え合いに加えて、災害時の対応や防犯に対する住民の不安なども見られます。

（７）観光・交流の拡大

東京オリンピック（2020年）の開催、リニア中央新幹線の東京・名古屋間の開業（2027年）などを背景として、観光に対する期待が高まっており、国や県が中心になってインバウンドによる観光客の受け入れ拡大が取り組まれています。特に国際的な観光の受け入れは全国的に大きな政策課題となっており、産業としても重点的な柱の一つとなっています。

また、愛知県においては、愛知万博の理念を次世代へ継承し、未来に繋げていくため、愛・地球博記念公園に、ジブリの作品群を保存し、多くの方々に見て楽しんでもらえる「ジブリパーク（仮称）」の開業（2020年代初頭）を目指しています。

（８）地球環境問題

化石燃料の大量消費や世界的な人口増加などにより、二酸化炭素などの温室効果ガスの排出量が増加し、地球温暖化の問題はより一層深刻化しています。地球温暖化問題は、自然災害のみによらず生態系や食料、健康などあらゆる面での影響が危惧されている課題です。

また、地球規模での生物多様性の危機が懸念されており、生物多様性の保全や、生物多様性の場として里地里山の保全活用などが求められます。

（９）地域における自立経営

2000年の地方分権法以降、地域での自立的な取組が進められており、ふるさと納税やクラウドファンディングなど、資金調達の仕組みが各地で多様化しています。

人口減少、高齢化、安心・安全への対応、子育て支援、コミュニティ強化など、地域を取り巻く課題は多様であり、それらの地域の課題解決に向けて、地域、市民、大学、NPO、企業など様々なセクターが、地域への関わりを強めています。

2 長久手市の特性と課題（内部要因）

（1）長久手市の現況

① 人口について

○総人口は2035年まで増加し、その後は緩やかに減少に転じると予測されます。

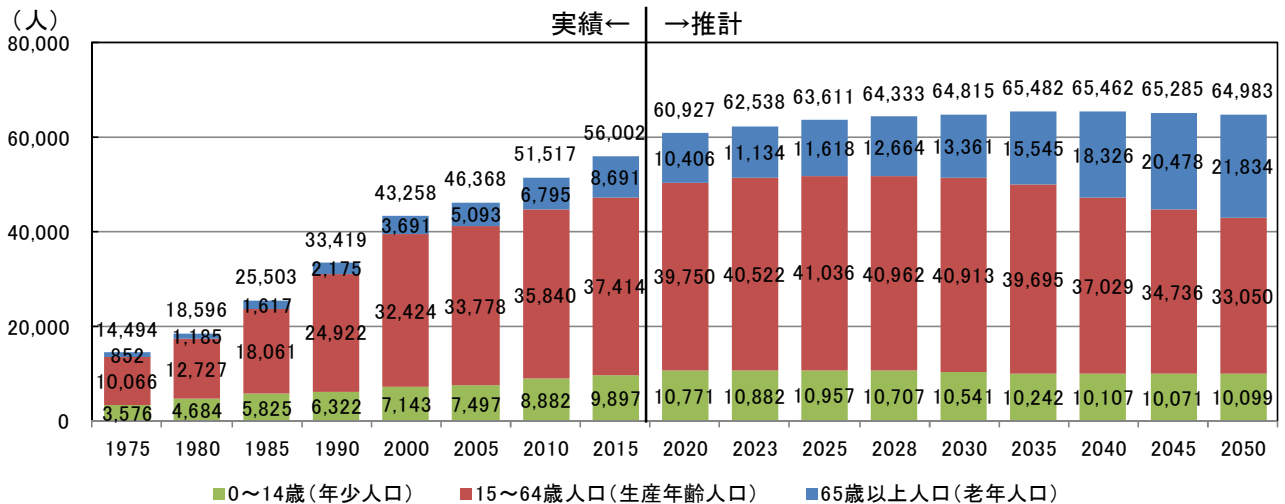
（図●）

○年少人口は、2025年の10,957人をピークに、年々減少していきます。（図●）

○老年人口は、2040年には18,326人と2015年から2倍以上の増加が予測されます。（図●）

○生産年齢人口は、2025年の41,036人をピークに年々減少し続けて、2040年には、全体に占める割合が60%を下回ります（図●）。

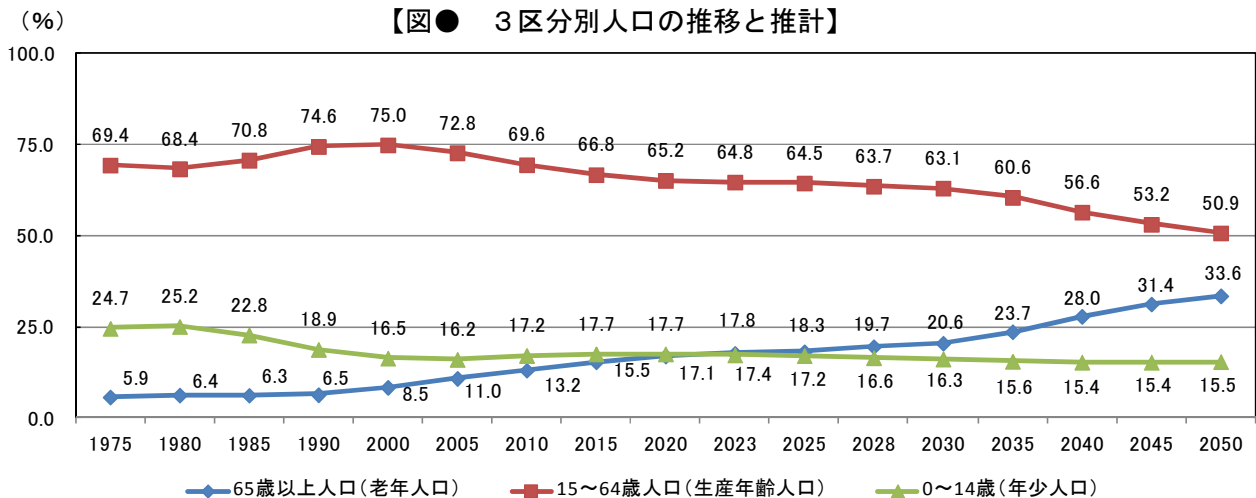
○2035年頃には、本市でも超高齢社会となり、団塊ジュニア（40歳代）の世代が高齢者になり始める平成52（2040）年頃から高齢化が一層進みます。



資料：国勢調査及び長久手市将来人口推計報告書

※実績については、年齢不詳を除いた値

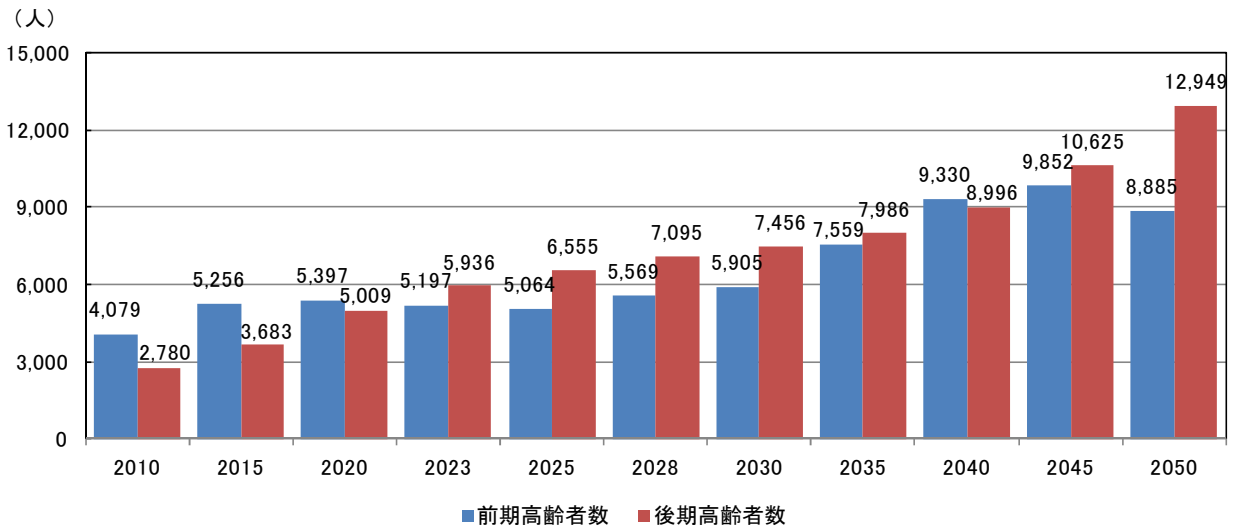
【図● 3区分別人口の推移と推計】



資料：国勢調査及び長久手市将来人口推計報告書

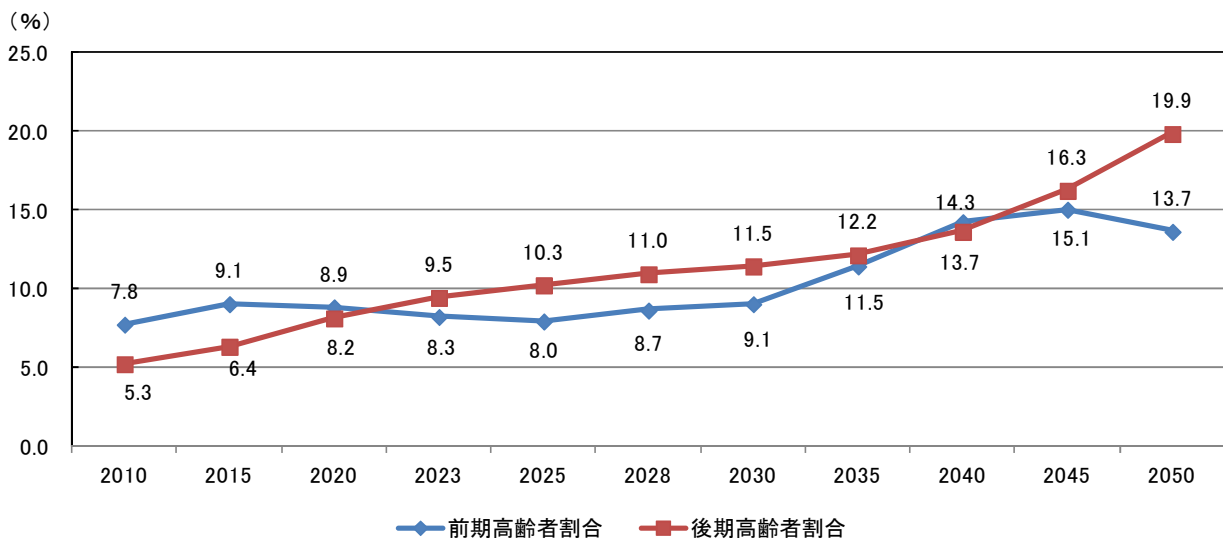
【図● 3区分別人口割合の推移と推計】

○2023年頃には、前期高齢者と後期高齢者の割合が逆転し始め、2050年には、後期高齢者の割合が大幅に高くなります（図●）。



資料：国勢調査及び長久手市将来人口推計報告書

【図● 前期高齢者・後期高齢者数の推移と推計】

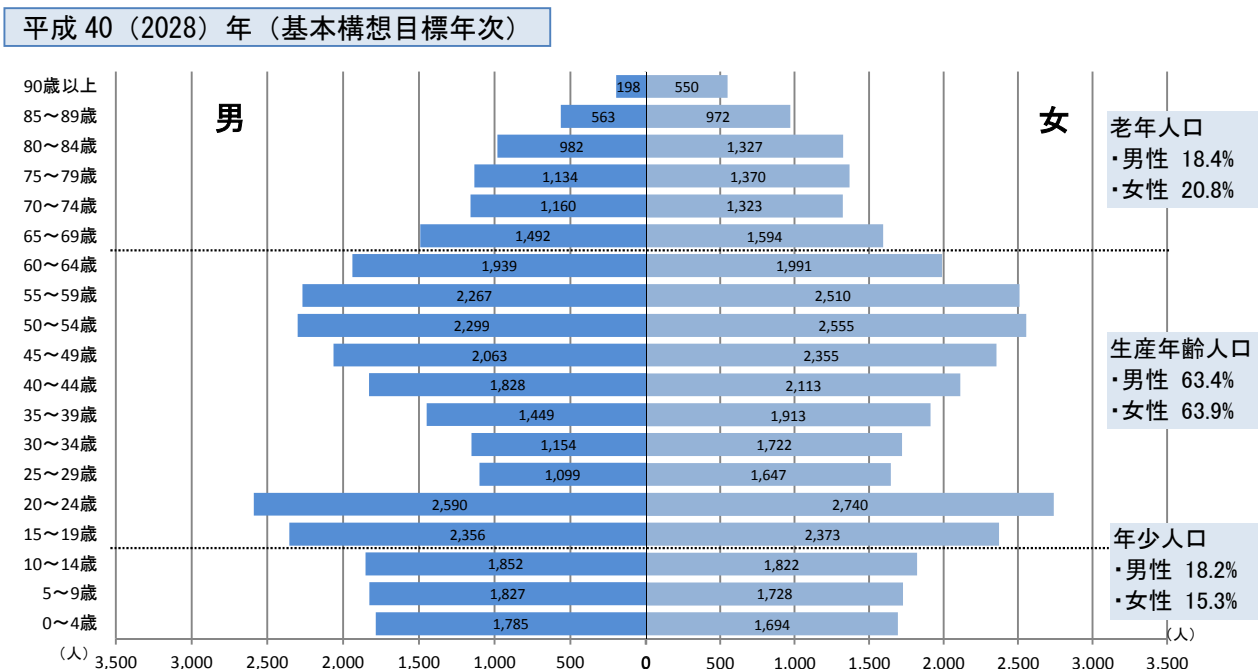
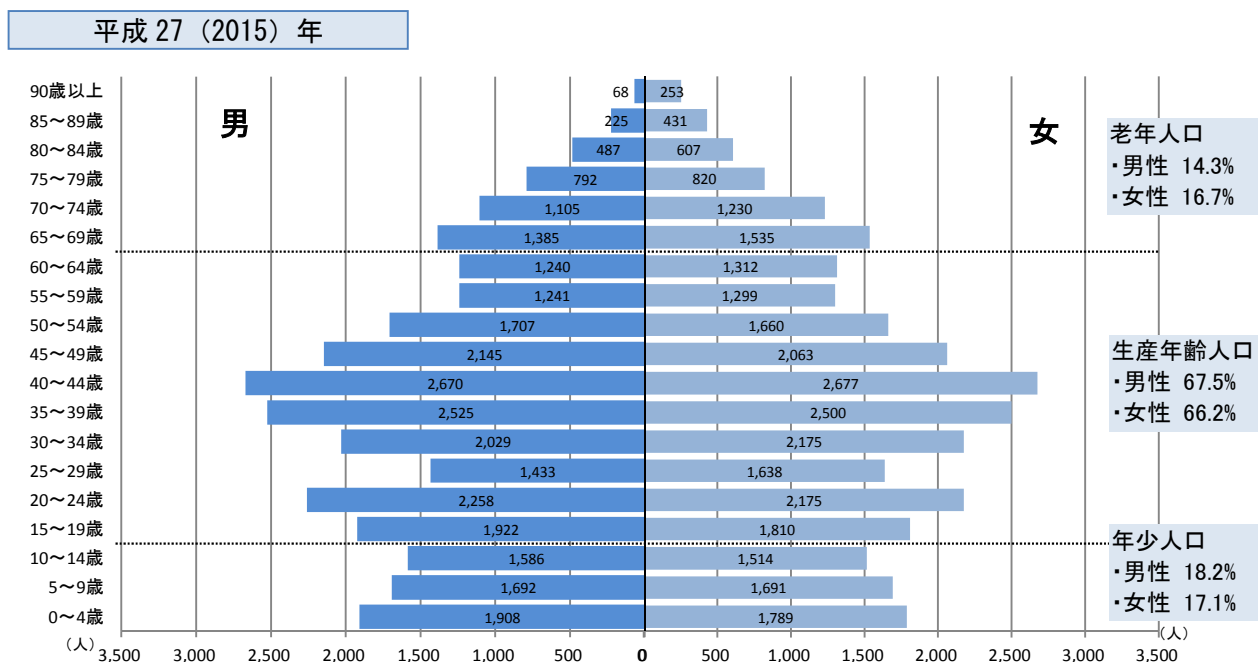


資料：国勢調査及び長久手市将来人口推計報告書

【図● 前期高齢者・後期高齢者割合の推移と推計】

○15～24歳と35～49歳の世代が多くなっています。(図●)

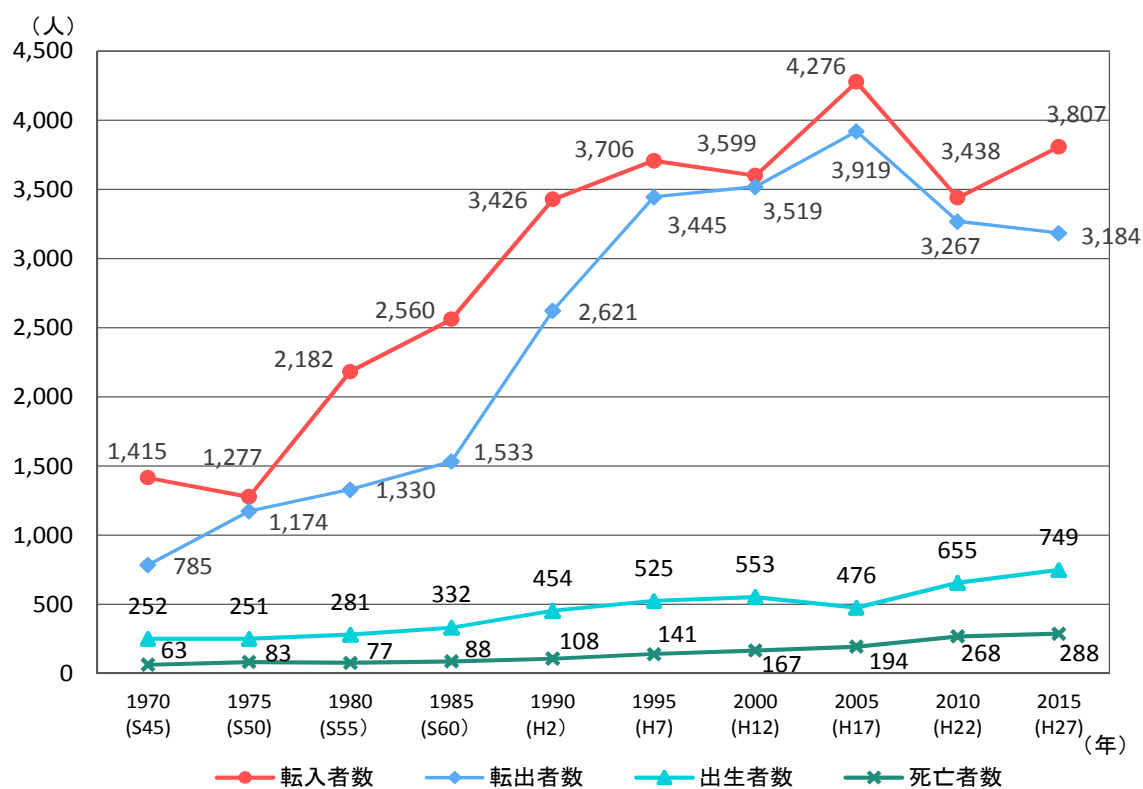
○男女ともに、老年人口の割合が増加しており、生産年齢人口の割合が減少しています。特に、50歳代が増加しています(図●)。



【図● 人口ピラミッドの推計】

資料：国勢調査及び長久手市将来人口推計報告書

○自然増（出生者数＞死亡者数）と社会増（転入者数＞転出者数）の傾向が続いています。（図●）

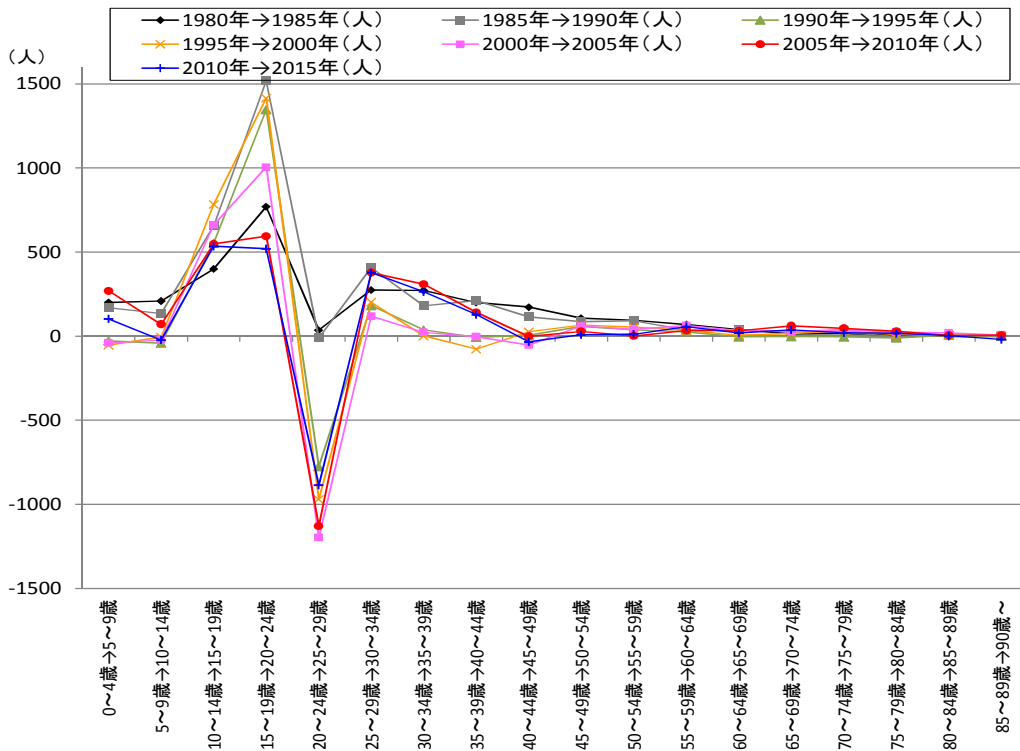


資料：ながくての統計（市民課）

【図● 自然増減と社会増減】

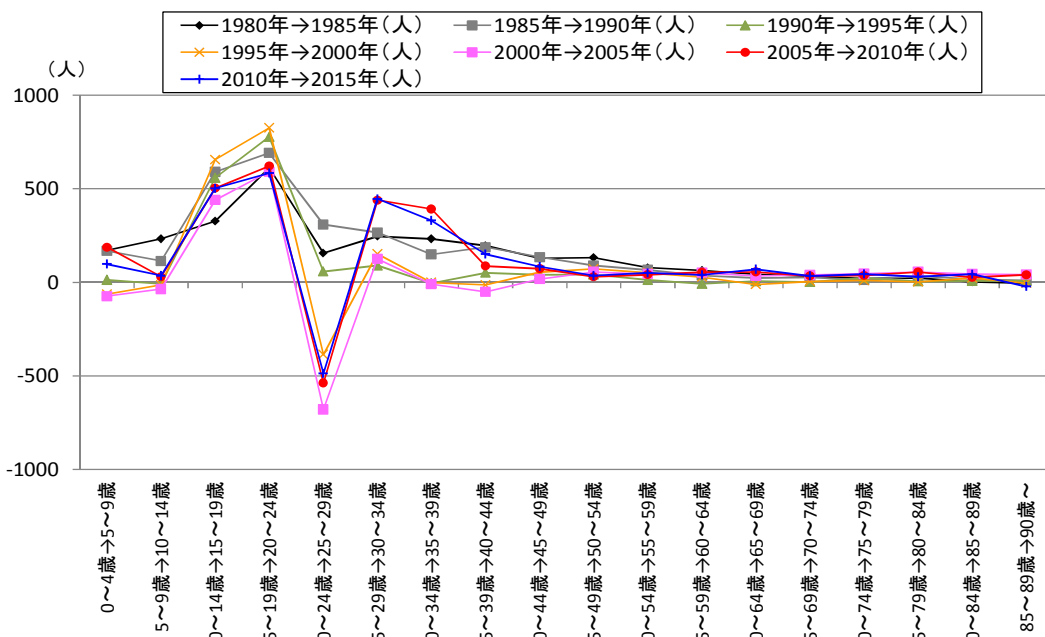
○人口移動の状況を見ると、男女ともに20歳前後の転入と25歳前後の転出が多く、これは市内及び周辺の大学立地による影響と考えられます。(図●)

○30～40歳代では転入超過となっており、これは土地区画整理事業や民間開発事業による宅地供給の影響と考えられます。(図●)



資料：国勢調査、総務省「住民基本台帳人口移動報告」

【図● 年齢5階級別の純移動数の時系列変化（男性）】

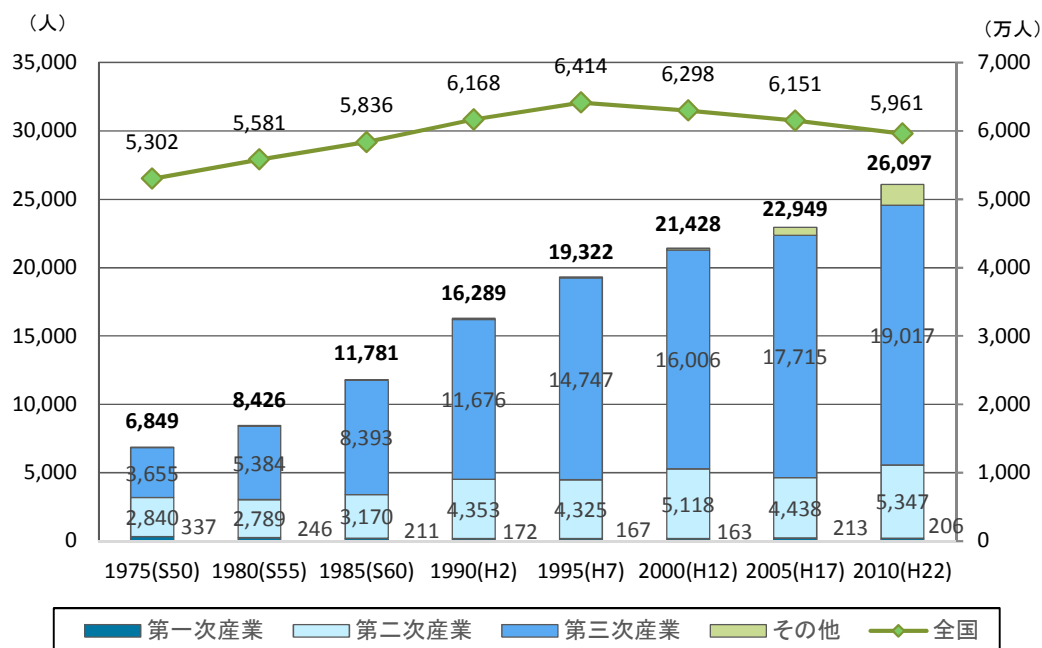


資料：国勢調査、総務省「住民基本台帳人口移動報告」

【図● 年齢5階級別の純移動数の時系列変化（女性）】

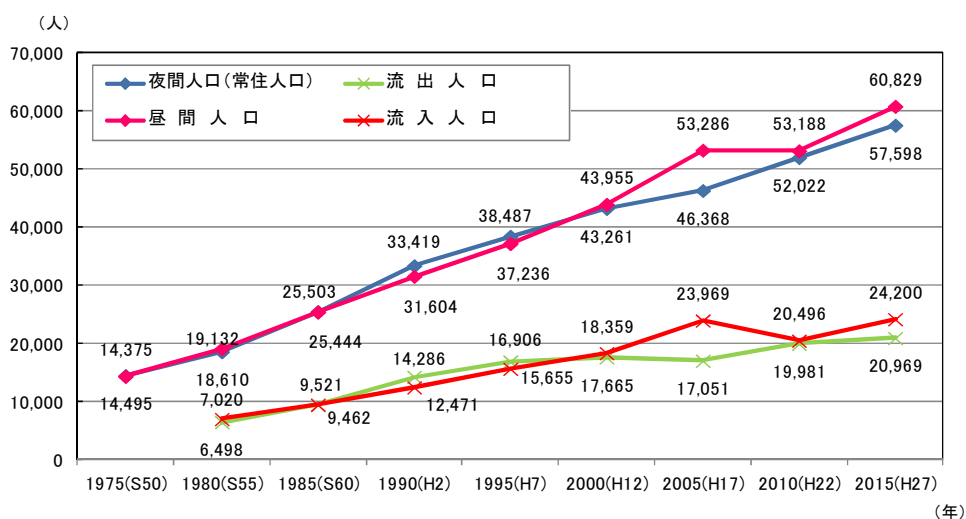
②地域の就業人口・産業等について

- 就業人口の推移については、全国的に就業人口が2000（H12）年から減少傾向にある中で、本市では人口増加に比例して就業人口も増加しています。（図●）
- 流出・流入人口の推移については、流入人口が上回っています。
- 昼夜間人口については、2005（H17）年の愛・地球博の開催時に昼間人口が夜間人口を大きく上回りましたが、その後はほぼ拮抗する状態となっています。（図●）



資料：国勢調査

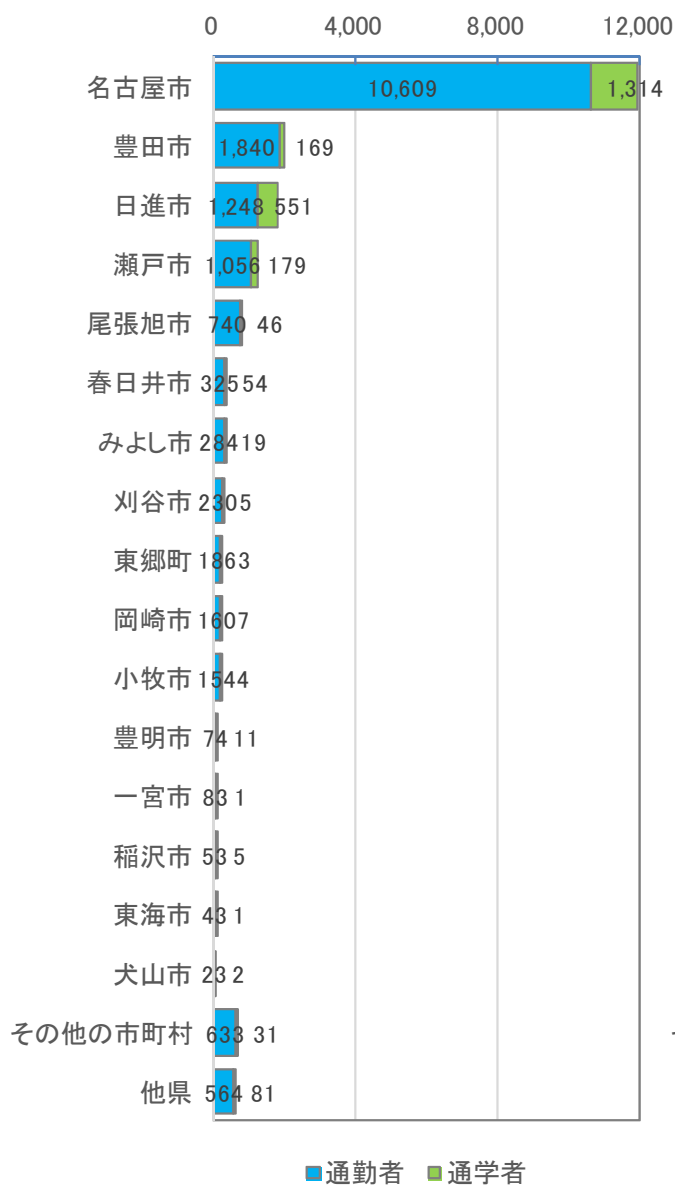
【図● 就業人口の推移グラフ】



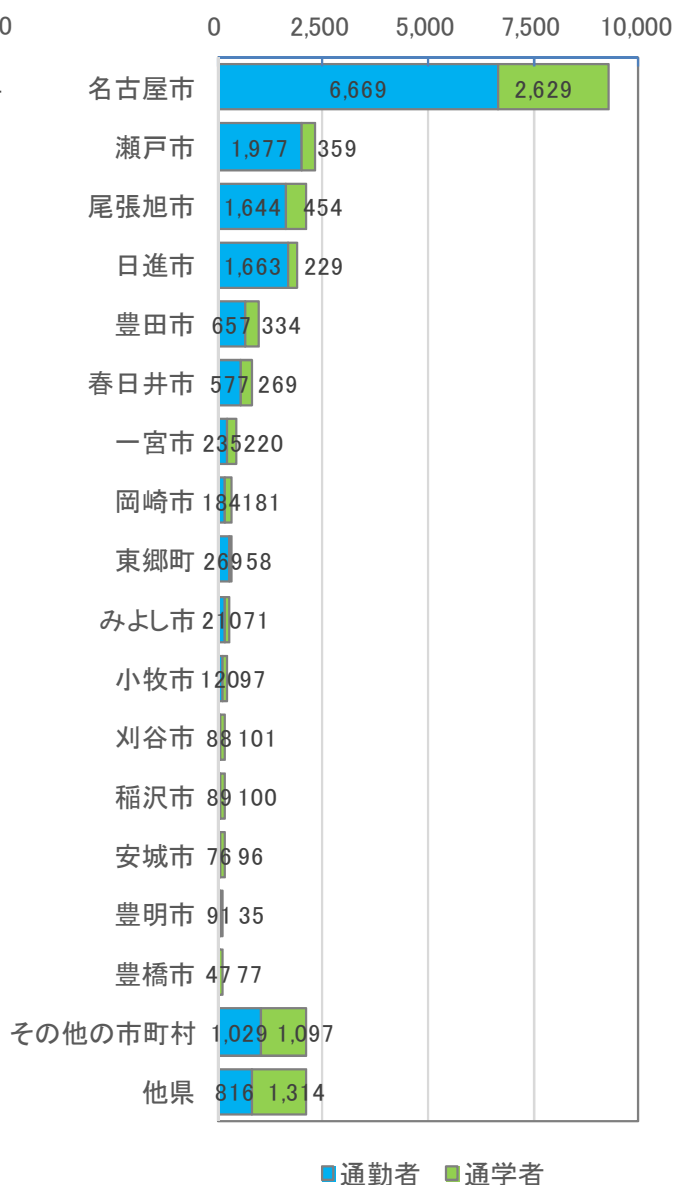
資料：国勢調査

【図● 昼夜間人口と流出人口】

○通勤の流入では名古屋市、瀬戸市が多く、流出は名古屋市、豊田市が多くなっています。通学の流入では名古屋市、尾張旭市が多く、流出は名古屋市、日進市が多くなっています。(図●)



【図● 市町別の通勤者及び
15 歳以上の通学者による流出人口】

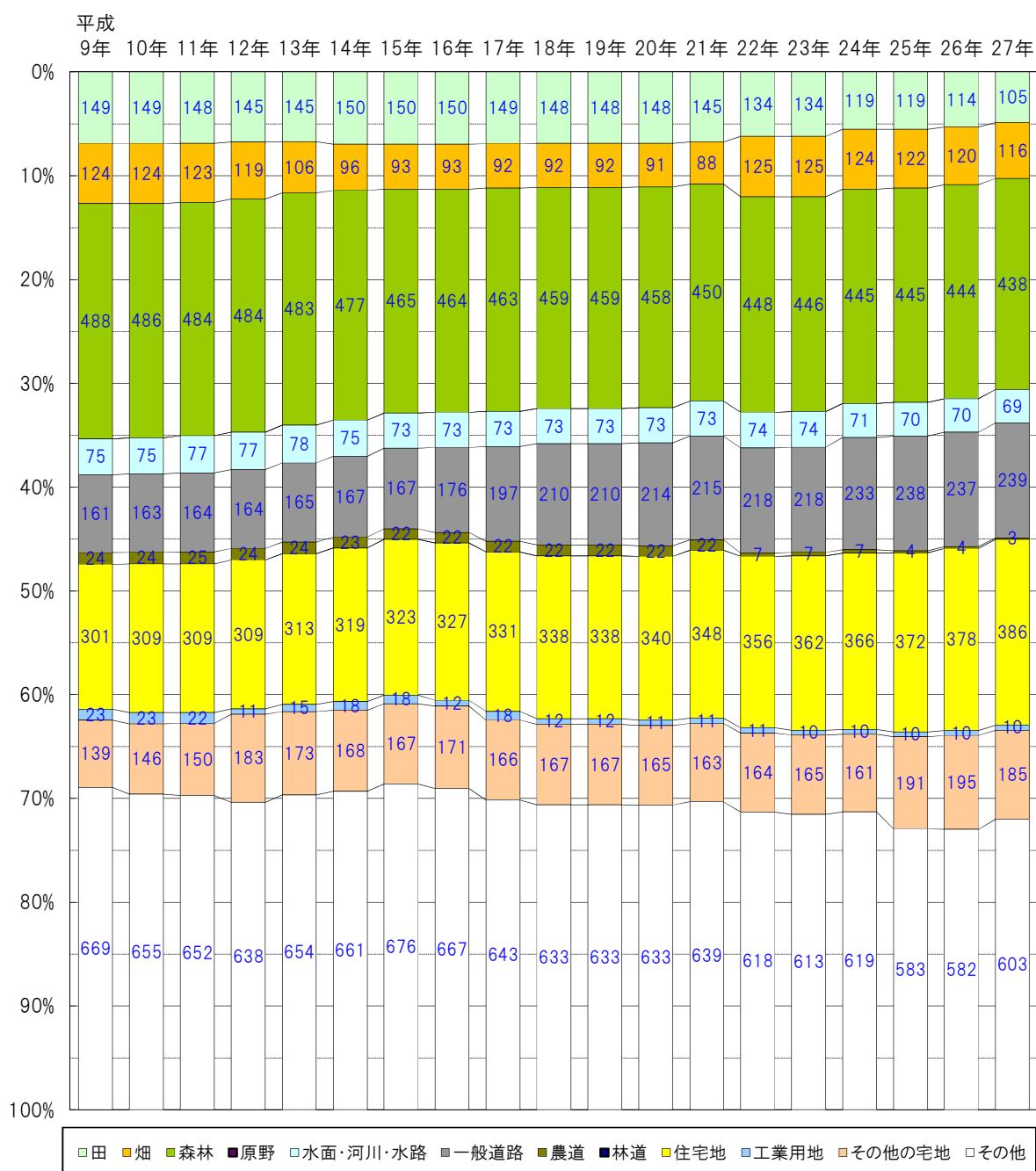


【図● 市町別の通勤者及び
15 歳以上の通学者による流入人口】

資料：国勢調査（H27）

③都市環境について

- 農用地では、平成 22 年以降、田が大きく減少しており、それに伴い農用地も減少傾向です。
- 森林では、継続して減少傾向にあります。近年では平成 14 年～15 年にかけて大きく減少しています。
- 住宅地は順調に増加しており、工業地は平成 12 年以降低調に推移しています。



資料：土地に関する統計年報（愛知県）青字は土地利用面積を表す（単位：ha）

【図● 土地利用区分構成比の推移（平成9年以降）】

(2) 財政狀況

現在、作成中

(3) 市民の声

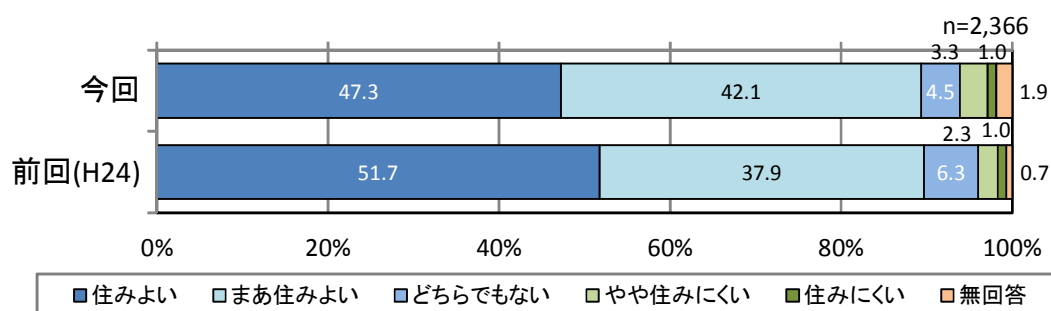
①長久手市市民意識調査

これまでの市政全般の成果を検証するとともに、市民のこれからのまちづくりに対する意向を把握し、今後の市政運営等に反映させるため、平成28年10月から11月にかけて、住民基本台帳から無作為抽出された市内在住の満18歳以上の方5,000人を対象に、アンケート調査を実施しました。次に示すのは、統計処理の結果見えてきた本市の姿の一部です。

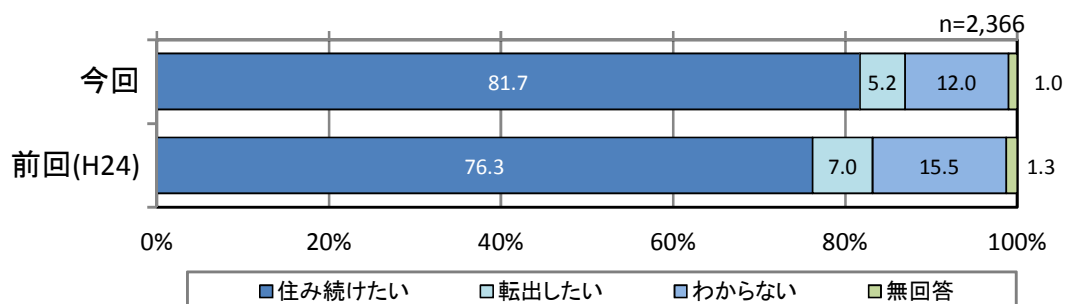
■調査の概要

配布数	回収数	回収率
5,000人	2,366人	47.3%

- 「住みよい」と「まあ住みよい」を合わせると約9割となっており、前回調査とほぼ同様の結果となっています。(図●)
- 「住み続けたい」と思う人は約8割で、前回調査より増加しています。(図●)



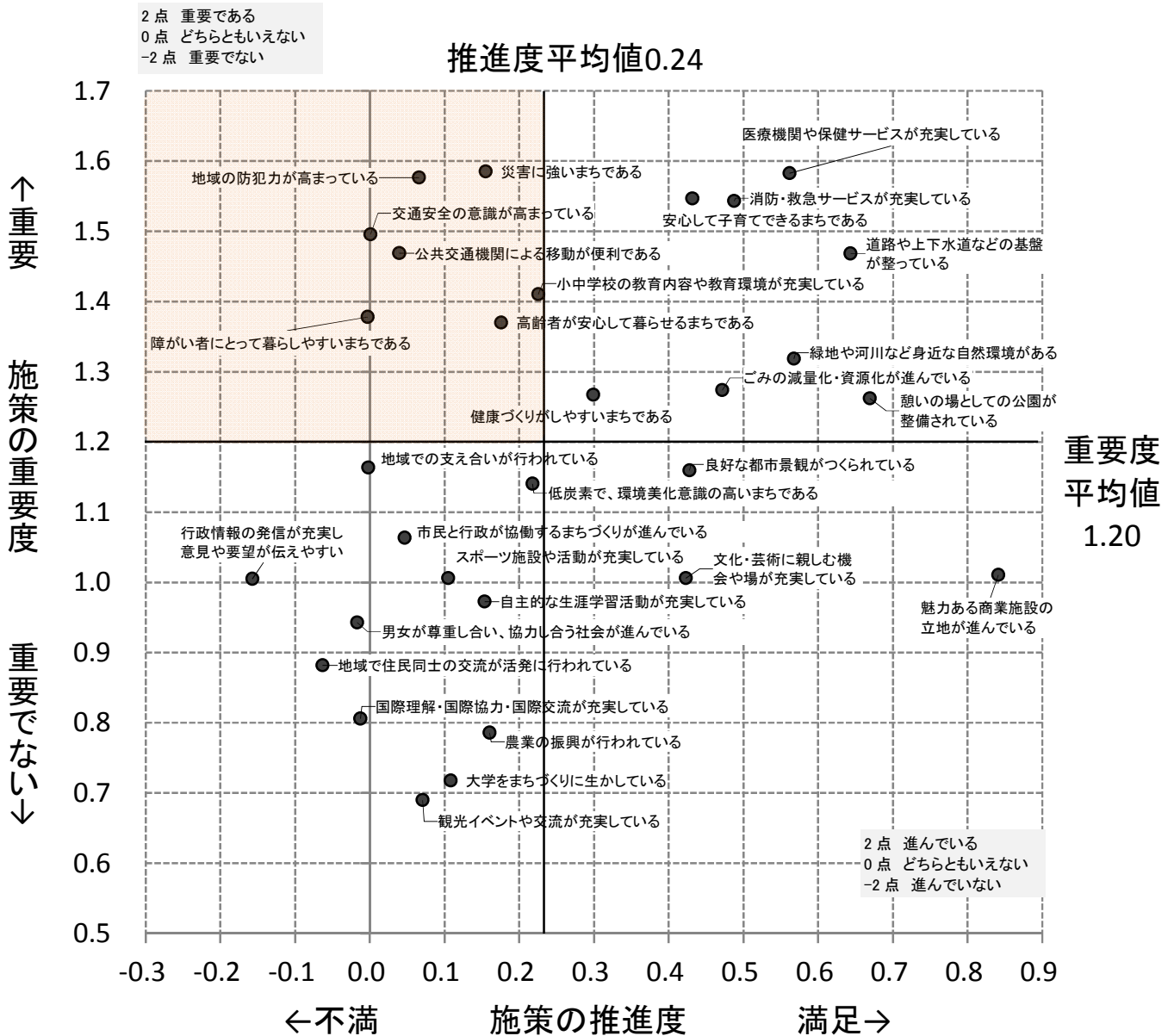
【図● 長久手市の住み心地】



【図● 長久手市の定住意向】

○市の施策の推進度については、ほぼ9割の施策が0点以上でプラス評価されています。

○施策の重要度が高いが、推進度が低い項目は、“地域の防犯力が高まっている”、“災害に強いまちである”、“交通安全の意識が高まっている”、“公共交通機関による移動が便利である”、“障がい者にとって暮らしやすいまちである”、“小中学校の教育内容や教育環境が充実している”、“高齢者が安心して暮らせるまちである”の7項目です。



【図● 基本施策の重要度・推進度】

②みんなの想い集

アンケート調査等では拾いきれない、市民のみなさんの声を聞くために、ワークショップを開催したり、活動団体へのヒアリングを行ったり、未来を担う子ども達の意見を聞いてきました。その人数は、延べ3,474人にもものぼります。以下に示すのは、延べ3,474人の方の声を整理し、その概要をまとめたものです。現状のまちの課題や、目指す理想のまちの姿についての想いが、語られています。

「人」に関する意見

- 幅広い層がまちづくりに関わっていることをまちの魅力とする意見が多くあげられています
- ボランティア活動をしている人も多く、活動環境も整備されています。
- 一方で、地域活動への参加意識に差があることが課題として多くあげられ、各世代ごとの活躍の場やまちづくりへの参加機会が求められています。
- 長久手市全体で、縦・横のつながりができて、地域で様々な交流や助け合いが生まれていると良い、という意見が多くあげられました。また、そのための環境整備も求められています。

「子ども」に関する意見

- 子どもが多く、子どもを通じて色々なつながりが生まれています。
- 見守り活動や施設整備を進められています。
- 子どもたちの居場所の整備はもちろん、子育てをするパパやママの居場所や、気軽に相談できる環境、親同士がつながり合えることも求められています。
- 子ども達が楽しく笑顔でのびのびと生活する将来が求められています。
- 保育園等の施設整備の充実も意見としてあげられました。

「自然環境」に関する意見

- 長久手市には多くの自然が残されており、財産となっています。
- まちと自然との共存を長久手市の魅力として、守り続ける必要があります。
- 耕作放棄地の増加や獣害が課題として多くあげられました。
- 農業の後継者や里山文化の継承など、次世代に豊かな自然を残すための策が求められています。
- 今の自然を、長久手市の財産として、後世にも残していくことが求められます。そのためには、今以上に自然を大切に作る心が必要になります。

「生活」に関する意見

- 福祉への支援が充実しています。
- 災害の不安の少なさや地域医療の充実も魅力です。
- 高齢化の進展による対策が求められています。住み慣れた地域で安心して暮らすには地域で助けあう「地域福祉」の推進も求められています。
- 助けが必要な人もいきいきと役割を持ちながら、市民みんなが安心して暮らすことができるまちづくりが求められます。

「交流」に関する意見

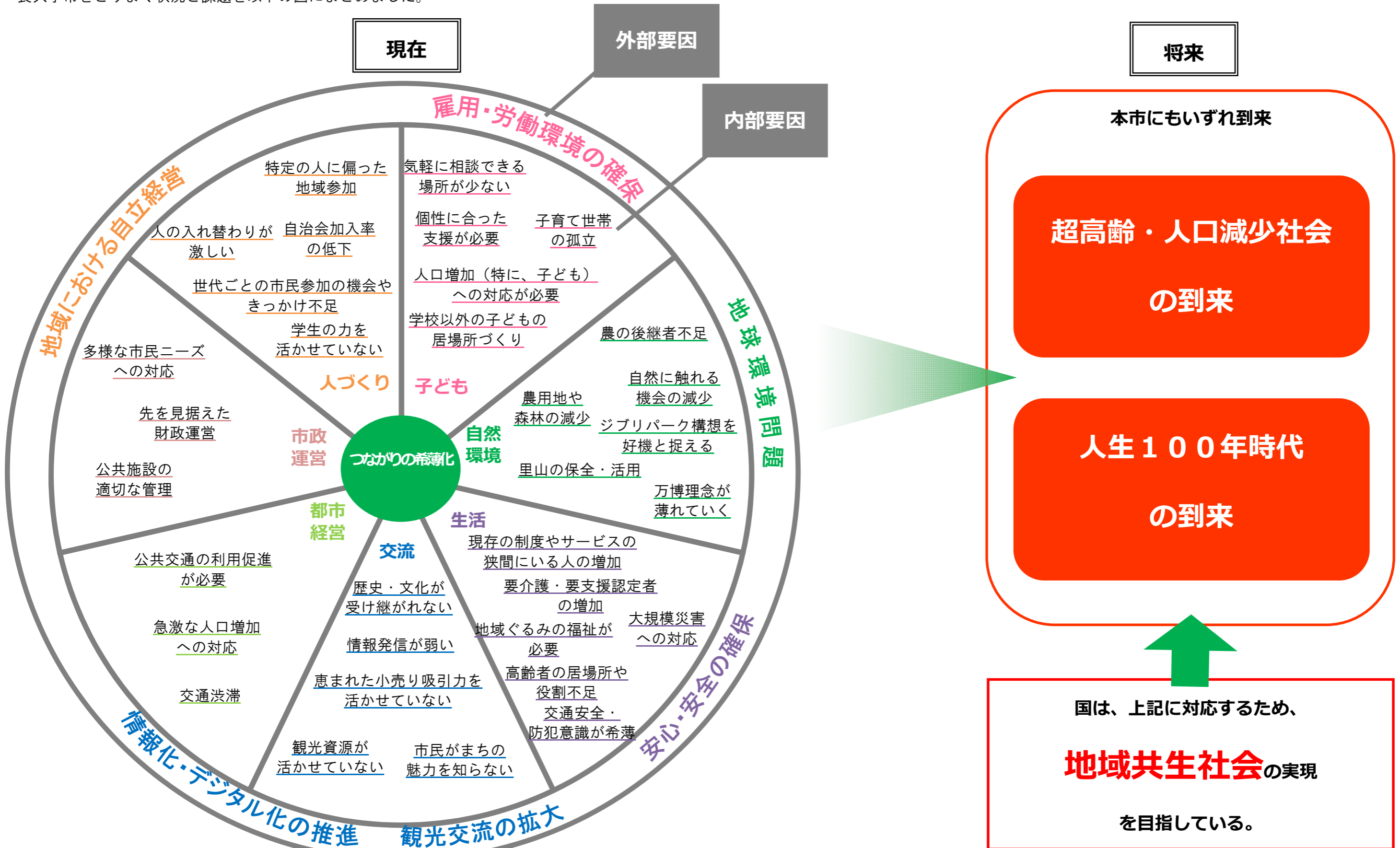
- 長久手市には昔からの歴史や伝統が受け継がれています。
- 福祉の家や文化の家等の交流・文化施設を魅力として感じている方が多くいます。
- 歴史や伝統の承継や、長久手市の良いところを伝えていくシティプロモーション等、さらなる交流を生む環境整備が求められています。
- 様々な場所で、スポーツや文化活動が行われ、活気のある楽しいまちが求められています。
- 歴史や伝統文化を、今後も受け継いでいくことも必要です。

「都市経営」に関する意見

- 整備された住宅地や交通アクセスが魅力としてあげられました。
- マンションや住宅整備が進み、人口が増えている点も魅力とされています。
- 地区によっては、交通が不便な所や渋滞が多発しているとの意見が多くあります。
- 公共交通を活用した移動しやすいまちへの整備が求められています。
- 誰もが安心して外出でき、様々なところに出かけられる交通整備・都市整備が求められます。

3 まとめ

長久手市をとりまく状況と課題を以下の図にまとめました。



1 「人づくり」の課題

本市は、約50年前には、約1万人程度だった人口が約5倍となり急激に人口が増加してきました。急激にまちをつくってきたことと引換えに、特に西部地域では、自治会加入率が低く地域のつながりが希薄になっています。超高齢・人口減少社会に対応するには、地域コミュニティの力が必要となりますが、転入が多い地域柄もあり、まちへ愛着を持ちづらく、地域活動に参加する人も多くなく、そこからの広がりもあまりありません。

毎年のように多くの学生が、大学入学を機に本市に転入してきますが、大学期間中にまちへの接点を持つことが少なく、せっかくの若者に住み続けてもらうチャンスを活かしていません。

さらに、人生100年時代という未だ誰も経験していない新しい時代の到来に向け、「働き直し・学び直し」等、特にリタイア後の高齢者が地域に役割と居場所を持ち、活躍できる仕組みづくりも課題といえます。

2 「子ども」の課題

全国的に超高齢・人口減少社会の到来が叫ばれており、本市でもいずれ訪れることから、その対策を今のうちから進める必要はありますが、本市では、2035年頃までは人口が増加すると推計しているため、人口増加への対応も同時に求められます。人口増加への対応で、最も重要なのが「子育て支援」です。

子育て世代の人口流入が続く本市では、増加する保育需要や多様化するニーズに対応していくことが喫緊の課題となっています。また、転入してきたばかりの世帯や身近に頼ることができる人がいない世帯を孤立させないことも必要です。

さらに、子どもたちは、未だだれも経験していない「人生100年の時代」を生きていく必要があるため、多様な価値観を認め合い、互いに尊重し、自らの人生を自らの力で切り拓く人間力を備える必要があります。

3 「自然環境」の課題

市街化された都市部と自然豊かな田園風景がバランス良く共存しているところが本市の魅力と考えている人が多くいます。2005年には、愛・地球博も開催され、そのテーマである「自然との共生」は本市においても万博の理念として根付いています。

しかし、時が経つにつれ、田畑や森林などの自然が減ってきています。

市東部を中心とする美しい里山や田んぼを維持して行くには、人の手を入れることも重要ですが、里山を整備する人の確保や農業の担い手不足が課題となっています。

このままだと長久手の宝物である自然がさらに減って行ってしまうおそれがあります。その結果、子どもたちが自然に触れる機会が減ってしまったり、次世代にみどりあるふるさとの風景を残すことが困難になってしまいます。

そのため、豊かな自然環境を守りながら、里山の活用やまちに緑を増やす等、緑の創出を行うことで、次世代に受け継いでいく必要があります。

4 「生活」の課題

本市の人口増加は、2035年まで続きます。だからといって、安心ということではなく、実はもう既に、人口減少期の足音が聞こえてきています。

というのも、人口の構成に目を向けると、生産年齢人口の割合はすでに減り始めており、老年人口の割合は増加の一途をたどっています。高齢化に伴い、要介護・要支援者も増加しており、認知症もますます増加することが予想されます。一方で、健康寿命は延びており、人生は100年の時代に突入していきます。そのため、いつまでも元気であることが重要になります。

また、人口減少以外にもいずれ来るとされているものがあります。それは「南海トラフ巨大地震」です。こうした地震等の大震災は忘れた頃にやってくるともいわれます。市民一人ひとりが災害への意識をしっかりと持ち続けるとともに、災害時にお互いに助け合える地域づくりも重要です。

5 「交流」の課題

本市は、1584年に羽柴秀吉と徳川家康が直接対決した「小牧・長久手の戦い」の主戦場跡地であり、市内にはいくつもの史跡があります。棒の手や警固祭り等の無形文化財もあり、魅力的な資源は多くあります。また、市内には全国有数の芸術文化活動の拠点「長久手市文化の家」や、愛・地球博が開催された「モリコロパーク」の他、大規模商業施設も相次ぎオープンするなど、市内外から多くの方が訪れる施設も多くあります。

しかし、市民からは、そのような状況を活かし切れていないとの声や、人の入れ替わりが多い本市にあって、歴史や伝統文化が次世代にしっかりと継承できるのか、という声が聞かれ、課題といえます。

まちの資源を十分活用し、市内外の交流を促したり、また、その魅力を広げていく情報発信の強化も課題となっています。

6 「都市経営」の課題

本市は、急激な人口増加に対応するため、市街地の整備や道路整備、公共交通網の整備等を進めてきました。それらのインフラの整備は一段落し、都市を構成する輪郭となる基盤整備はほぼ完了してきたといえます。

そのため、これからは、いかに適正にこれらのインフラを維持していくかという視点や、市民がいかにこのまちで快適に暮らし続けていけるか、という視点を持った「都市経営」が必要となります。

この部分で、一番重要となるのが、交通環境の整備です。先に述べたとおり、道路の整備等はある程度は完了しているので、これからは、高齢化がさらに進展する将来も見据え、市民が安心して移動することができる交通手段の確保や日常生活圏で暮らしていく環境整備が課題と言えます。

また、集客力の高い施設が市内に点在することから、交通量は増加の一途をたどっており課題と言えます。

そのため、交通環境の整備を推進しつつ、様々な世代の方が、日常生活の中で歩いて暮らせる環境を整備していく必要があります。

7 「市政運営」の課題

超高齢・人口減少社会の到来や人生100年時代の到来など、現在日本は変化の渦中にいます。その中であって、地方自治体は、市民の暮らしを支える土台として、社会情勢の変化に柔軟に対応し、地域の実情に合わせた市民ニーズに適切に対応していくことが求められます。

そのような時代にある行政の職員や組織は、これまでの常識や慣習をときに疑い、新しい答えを探していくことが必要となります。また、多様化する市民のニーズをしっかりと把握していくことも必要と言えます。

さらに、本市では、2035年頃までは人口は増加すると推計していますが、生産年齢人口については、2025年をピークに減少が始まると推計され、行政サービスを提供するためのお金、つまり税収は減少していくことが予想され、課題といえます。

また、これまでつくってきた公共施設等の維持管理だけでも年平均で約10億円が必要となり、適正な公共施設の管理も課題となっています。

第3章 目指す将来像

1 将来像

資料3参照

2 基本目標

人づくり／子ども／自然環境／生活／交流／都市経営／市政運営

の7つの分野ごとの基本目標について、

「2028年、この分野で長久手市が目指すまちはこんなまち」

というイメージを、

「ながくて未来の物語」として物語調にまとめています。

また、その物語の実現するための取組の方向性をまとめています。

基本目標1 「やってみたい」でつながるまち

小学校区単位で様々な活動団体をネットワーク化したまちづくり協議会や、地域交流の拠点となる地域共生ステーション整備を進めることにより、地域の人たちがつながり、地域を支える人が育つまちを目指します。

また、市民一人ひとりの興味に応じたやってみたいことの実現や、地域の課題解決に向け挑戦したいことを、地域ぐるみで支援し応援する地域づくりを推進することにより、さらに人と人がつながるまちを目指します。

ながくて未来の物語 ～この分野での2028年の理想の姿を描いた物語～

2028年。長久手に生まれ、長久手に育ち約21年が経った。長久手も随分発展したけど、私も長久手に随分「育ててもらった」感じがする。

小さいときから自分が住む「まち」に触れる機会は多かった。学校でも「まち」について学ぶことがあったし、「地域コミュニティ」という言葉は当時知らなかったけど、「自分たちの住むまちを、自分たちで良くしていこう」という意識を、なんとなく周りの大人達から感じていた。その影響もあってか、長久手には愛着があり、卒業後の「生き方」についても、ふるさと長久手のことを意識せざるを得ない。

私たちが生きる時代は、「人生100年時代」といわれているが、ここ長久手では、“働き直し・学び直し”ができる環境があり、いつでも、誰でも「やってみたい」が叶う仕組みが整っている。私の大学の先輩で、一度就職で長久手を出てから、また長久手で働き直している人がいるし、一度退職した女性が働き直すこともよくあると聞く。長久手でそのようなことが起こる理由の一つは、“働き直し・学び直し”の拠点があるからだ。地域共生ステーションや私が通う大学などの市内の学び舎が拠点となり、ここに、高齢者や障がいのある方、子ども、大学生、会社員、子育て中の夫婦、起業家、外国の人など、多様な人達が集まる場になっている。そこで、お互いの知っていることや得意なことを引き出し合いながら、時には教え、時には教えられる「学びの循環」が起きており、人が育ち、つながりも生まれ、コミュニティも育っている。

卒業後も愛着ある長久手に暮らし、「やってみたい」ことにチャレンジし、楽しみながら育っていこう。そして、今度は、私も、誰かを、長久手を育てていこう。

政策1 地域共生を支える人づくり

- 「自分たちのまちは、自分たちで良くしていこう」という意識を育むため、地域の担い手づくりに取り組みます。
- 地域コミュニティを活性化させるため、まちづくり協議会への支援や地域共生ステーションの整備に取り組みます。
- 「まち」に触れる機会を増やすため、地域活動へ参加しやすい環境の整備に取り組みます。

政策2 「やってみたい」が実現できる地域づくり

- 学生を始めとする若者の「やってみたい」を実現するための仕組みづくりに取り組みます。
- 多様な市民の「働き直し・学び直し」を応援するための地域づくりに取り組みます。
- 高齢者がさらに地域で活躍できるよう、役割と居場所の拡充に取り組みます。
- 「学びの循環」により人が育ち、つながりも生まれるようにするための仕組みづくりに取り組みます。

<ながくて未来の物語 イメージイラスト>



基本目標2 子どもが元気に育つまち

安心して妊娠から出産・子育てができる環境の整備や支援体制を構築することや、子育てを通じたネットワークづくりを推進することにより、子育て世帯が孤立せず子育てができるまちを目指します。

また、そうした環境の中で、子どもたちが学校や地域、自然の中でのびのびと学び、元気に育ち、そして、子どもだけでなく、親も地域も、子育てを通じてともに育ち合えるまちを目指します。

ながくて未来の物語 ～この分野での2028年の理想の姿を描いた物語～

2028年。2歳と4歳と7歳。3人の子ども達と毎日楽しく暮らせている。

運動が得意な子、苦手な子、お話しするのが好きな子、苦手な子、本が読むのが好きな子、苦手な子、障がいがある子、ない子、それぞれが子ども達の大切な「個性」として受け入れられ、長久手の子ども達は、よく遊び、よく泣き、よく悩み、よく笑い、感性豊かに育つと友達から聞き、結婚を機に、隣町から長久手に引っ越してきたけど、その噂は本当だったみたい。

転出入の多いまちのせいか入ってくる人に対して地域の人が気にかけてくれるし、地域の行事に参加しているうちに、関係性が築けてきて、子育てを通じて自由な交流やつながりが生まれた。最初は、自分の子どもを人に預けることに抵抗があった私も、いざというときに、お互いに頼れるネットワークができた。地域の人と関わることに消極的だった私たち夫婦も、気付けばパパ友・ママ友ができ、情報交換や一緒に地域活動もしている。

働きながらの子育ては不安だったけど、家族の理解や支え合い、産み育てる環境の整備、困った時にふらっと気軽に相談しにいける場があり人がいるおかげで、何かあったときの心のよりどころになっているなあ。

親も地域の方もみんなが子どもたちをあたたく見守り受け入れてくれていて「まち全体で子育てをしている」ような、そんな雰囲気があるから、きっと子ども達は自然の中で、まちの中で、のびのびとありのままに生きられ、感性が育っているんだと思う。そして、そんなまちで暮らす大人達も、のびのびいきいきと暮らしていると感じる。

「このまちで育った子どもたちはどんな大人になるのかな？」思わずそう考えてしまう大人は私だけでないはず。そんなまちってやっぱり素敵。

「ながくて未来の物語」を実現するための取組の方向性

政策1 妊娠から出産・子育てまでの切れ目のない支援

- 安心して出産するための環境の整備に取り組みます。
- 安心して子どもが過ごすための場の整備に取り組みます。
- 子育て世帯が孤立しないようにするため、子育て情報を整理し提供します。

政策2 子どもを通じて育て合い育ち合うまちづくり

- 「まち全体で子育てをしている」ような意識を育むため、子育てを通じた地域ネットワークづくりに取り組みます。
- どんな子どももそれぞれの個性が大事にされるようにするため、子ども達の多様な個性を尊重する意識の向上に取り組みます。

政策3 子どもの感性が育まれる環境の整備

- 子どもたちが、のびのびとありのままに生きられるようにするため、子どもの主体性が育つ機会の創出に学教教育を軸に取り組みます。
- 子どもが自ら学びたいと思えるようにするための環境の整備に取り組みます。
- 自然の尊さを理解できる子どもを育てるため、自然と共生する心が育まれる機会の創出に取り組みます。

<ながくて未来の物語 イメージイラスト>



基本目標3 みんなでみらいへつなぐみどりはまちの宝物

里山や田畑の保全や活用、みどりの創出、水辺環境の整備により、豊かな自然環境を、子どもたちへ、またその次の子どもたちへつないでいくまちを目指します。

また、二酸化炭素の削減や限りある資源の再利用により、地球に優しい持続可能な循環型社会が構築されたまちを目指します。

ながくて未来の物語 ～この分野での2028年の理想の姿を描いた物語～

2028年。長久手に暮らして40年。私が生まれ育った長久手は今でも豊かな自然に恵まれている。自宅があるまちの西の方の都市部には、公園や街路樹など至るところに“みどり”があり季節を感じられる。まちの東の方では、田畑や里山があり、自然の雑木林の中では子どもたちが駆け回り、同じ市内にしながら自然を存分に感じられる。

私も参加しているが、香流川では、地域で清掃活動が行われとてもきれいだ。みんなこの川を愛し、カワセミが住みついていて、いろいろな生き物からも愛されている。中には田畑や自然を荒らしてしまう動物もいるけど、地域や行政で協力して対策をしながら、いろんな生き物と共存している。

小さい頃は気付かなかったけど、こうして今でも、子ども達が雑木林を駆け回れたり、田んぼも里山も香流川も、美しく保たれているのは、その時代時代に、この自然を愛し守る人たちがいて、それを受け継ぐ人がいるからなんだ。休耕田になっていたようなところも、「みんなで受け継ぐ」という意識から、地域で協力して管理したり、若い後継者につないだりができてきているように感じる。

私も、このまちの宝物である美しい自然を守り、また次世代につないでいきたいと思っている。

今ある自然をほったらかしにするのではなく、「まちの宝物」として、人の手を入れながら、みんなで未来へ残していくという意識こそ、まちの宝物なのかもしれない。

「ながくて未来の物語」を実現するための取組の方向性

政策1 万博理念を継承した自然との共生

- 自然を愛し受け継ぐ人を育てるため、自然に愛着を持つ地域づくりに取り組みます。
- 今ある自然を次世代につなぐため、豊かな自然環境の保全に取り組みます。
- まちでみどりを感じられるようにするため、緑化に取り組みます。
- 水辺を美しく保つため、水辺に親しめる環境の整備に取り組みます。

政策2 農あるくらしの推進

- 農に興味のある人を増やすため、農に触れる機会の創出に取り組みます。
- 休耕田を減らすため、農の多様な担い手の育成に取り組みます。

政策3 地球にやさしい持続可能な循環型社会の構築

- 持続可能な社会を構築するため、くらしの低炭素化に取り組みます。
- 循環型社会を構築するため、ものを大切にする取組を進めます。

<ながくて未来の物語 イメージイラスト>



基本目標 4 みんながつながり、誰もがいきいきと安心して暮らせるまち

市民一人ひとりが地域で役割や居場所づくりを進めることにより、地域で支え合い、助け合いながら、いつまでも元気にいきいきと暮らすことができるまちを目指します。

また、助けが必要な方への支援や、市民の安全を守る交通安全・防犯・防災の取組により、だれもが安心して暮らすことができるまちを目指します。

ながくて未来の物語 ～この分野での 2028 年の理想の姿を描いた物語～

2028 年。退職してから、もう 5 年になるかな。もしかしたら、仕事をしていたときより、働いているかもしれない。今の職場は、「地域」だけだ（笑）

働いているときは、家と職場の往復だけだった。たまたま自治会長になったのをきっかけに、いざ退職して地域デビューしてみると、地域には、実にさまざまな「役割」があるもんだ。なかなか地域に出られなかった自分が、今では、いろんな人の「地域デビュー」のきっかけづくりの「役割」を担ってるなんてことを 10 年前の自分に言っても、きっと信じてもらえないだろうなあ（笑）

「役割」で言うと、長久手市では、生活する上で、誰かが困っていることを、家族でできることは家族で、地域でできることは地域で、行政がやらねばならないことは行政で、とうまく役割分担をしながら、解決できていると感じる。

「地域のみんなでできることはみんなで行こうよ」という意識が根付いているからか、世代や住んでいる年数も関係なく、地域のつながりも強く、まちでよくみかけるのは、ご近所さん同士のおしゃべりだ。

日頃から声をかけあっているからこそ、犯罪からみんなの生活を守っていて、災害の際は、当たり前のように助け合う。ご近所さん同士のおしゃべりは、情報交換にもなっていて、一人暮らしの高齢の方や、体が不自由な人などで、最近見かけない人がいれば、様子を見にいたり、行政と連携して支援も行っている。

高齢化は進んでいるが、支援も充実しているし、何より地域に「役割」があるからおちおち家で寝とられん。だけど、おかげで私も友達もいつまでも元気でいきいきしとる。「安心して暮らせるまち」に地域のつながりや役割が必要なんだな。

「ながくて未来の物語」を実現するための取組の方向性

政策1 地域の課題をみんなで解決する

- 「地域でできることは地域でやろうよ」という意識を育むため、助け合い・支え合いの地域づくりに取り組みます。
- 困り事を市民が気軽に相談できるようにするための場を周知し活用の促進に取り組みます。

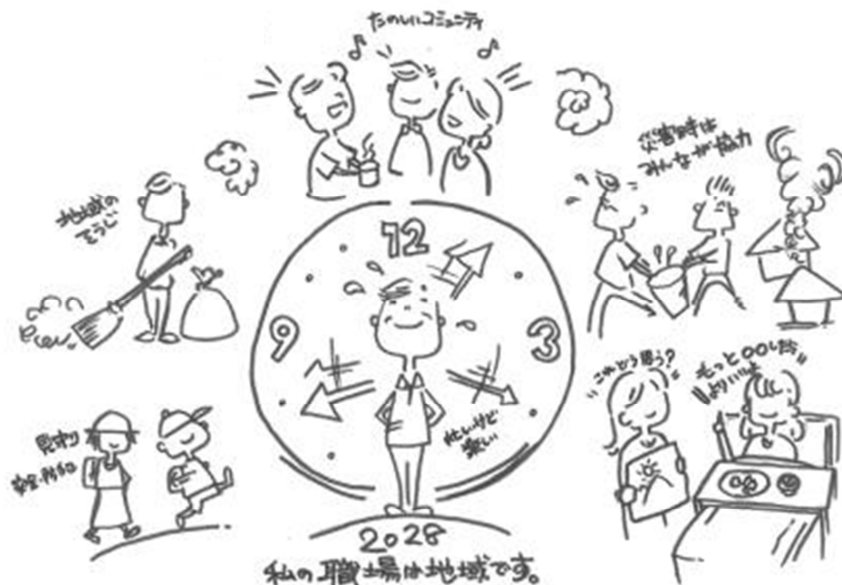
政策2 元気にいきいきと暮らすことができる地域づくり

- 地域で役割と居場所のある生きがいのあるくらしの推進に取り組みます。
- 要介護にならない、要介護度をあげないための予防に取り組みます。
- いつまでも元気でいきいきと暮らすため、運動による健康づくりに取り組みます。

政策3 住み慣れた場所で安心して暮らすことができる地域づくり

- 誰もが安心して暮らすため、くらしを支える生活基盤の充実に取り組みます。
- 助けが必要な人を孤立させないようにするため、福祉情報の見える化の推進に取り組みます。
- 安全な生活を守るため、交通安全・防犯の推進に取り組みます。
- 災害時に、助け合える地域にするため、地域防災力の向上に取り組みます。

<ながくて未来の物語 イメージイラスト>



基本目標5 いつでもどこでもだれとでも広がる幸せの和

歴史や文化、芸術、スポーツを活用した市民同士の交流も促し、交流による幸せの和がどんどん広がっていくまちを目指します。

また、数あるまちの資源を活かし、観光をまちづくりの一つと捉え、市内外の人と人との触れ合いやつながりをつくっていくという視点を持った「観光交流」スタイルの確立や積極的な情報発信により、魅力が広がるまちを目指します。

ながくて未来の物語 ～この分野での2028年の理想の姿を描いた物語～

2028年。「やあ、おはよう！」私が登校するときは、いつもいろんな人が声をかけてくれる。

小さいときから、さくらまつりや夏まつり、伝統的な警固祭り等、いろんなイベントに参加する機会があったので、仲の良い大人の人もたくさんいる！会うと長久手の文化とか歴史の話とかをしてくれるんだ。おかげで顔見知りの人も増えてきていて、みんな気軽に声をかけてくれる。

今は中学生になって、友達同士や家族で、文化の家や図書館や古戦場公園等によく行くよ！この前は、友達と文化の家のワークショップに参加したり、古戦場公園で昔のことを勉強したり、家族で警固祭りを見に行ったりしたよ。楽しいイベントや場所がたくさんあるから、「今日はどこに参加しようかな」「だれを誘おうかな」って迷ってしまうほど。

長久手市でやっているイベントやまちのオススメ情報なんかもホームページとかでたくさん発信されていて、長久手市に住んでいる人も住んでいない人もそれをみて情報を集めているみたい。実際に行った人がSNSで発信してたりして、長久手市の魅力がどんどん広がっていて、長久手に住んでいない人も住んでいる人もみんな楽しく交流できている気がする！長久手のことを知れば知るほど好きになるし、私ももっとたくさんの人に長久手のことを教えてあげたい！

中学からは部活を始めたから、運動もたくさんするんだけど、小さい子からおじいちゃんまでみんないろんなところで運動してるから私もやる気がする！

こうやって、気が向いたらいつでも、どこに行ったらって、そこにいるだれかと、遊んだり運動したり、交流しながら暮らせて幸せ！

「ながくて未来の物語」を実現するための取組の方向性

政策1 まちの資源を活かした市民同士の交流の促進

- まちの歴史を次世代に継承するための取組を実施します。
- 文化・芸術による交流を促進するための取組を実施します。
- スポーツによる交流を促進するための取組を実施します。

政策2 観光交流まちづくりの推進

- まちの資源を活かすための観光交流スタイルの確立に取り組みます。
- 市内外へまちの魅力を広げるため、情報発信の強化に取り組みます。

〈ながくて未来の物語 イメージイラスト〉



基本目標6 あえて、歩いてみたくなるまち

公共交通の利便性向上により、車に過度に依存しないまちを目指します。

また、まちで緑を感じ、四季を感じることができ、徒歩や自転車で安心して楽しく移動できる環境の整備により、「今日はあえて歩いてみよう」と思ってもらえるまちを目指します。

ながくて未来の物語 ～この分野での2028年の理想の姿を描いた物語～

2028年。私たち夫婦も高齢者になり、ちょっと運転に自信がなくなって、運転免許を返納してしまったんだけど、それでも長久手は住みよいまちだよ。

リニモやN-バスなどの公共交通やそれ以外の移動手段も整備されていて移動しやすいから、買い物や通院には困らないし、公共施設にもストレスなくいけてとても便利。大きな荷物を運ぶ時とかには、いつも気にしてくれているご近所さんが出かけるついでに車で送ってくれたりして助け合っている。

便利であると同時に、長久手では、自然も大切にされていて、住宅地といいバランスで共存している。市内の住宅地には、庭の手入れをする方が増えて、あちこちで会話の花が咲いているなあ。まちの至る所に緑があるし、ちょっと歩けば道に花が咲いていたり、遊歩道もある。自然を感じながらまちを歩くのは楽しいし、健康にも良い。隣の家族も週末になるとお子さんと一緒に自転車で出かけていて楽しそう。私の友人は車に乗っているけど、整備された公共交通や「自分で行けるところは歩いたり自転車に乗ったりして自分で行く」という意識が根付いているからか、何年か前に比べて渋滞も少なくなって快適だし安心！って言ってたな。

このまちは誰にとっても、「安心して」、かつ「楽しく」外に出るための整備が進んでいる。

楽しいことがあると思うと、ついつい外に出かけたくなる。そういった人が多いから、このまちは賑やかで、活気づいているのね！

「ながくて未来の物語」を実現するための取組の方向性

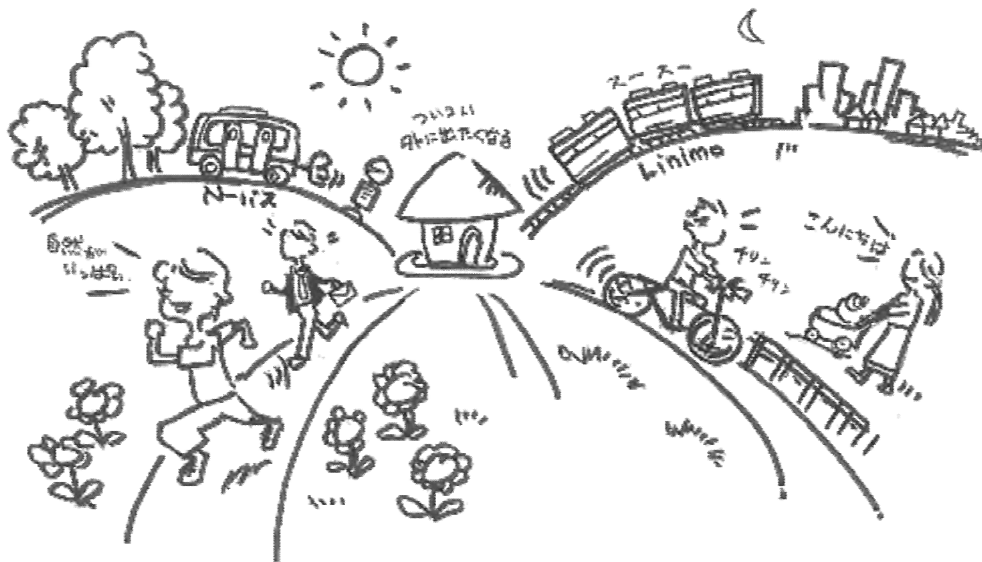
政策1 移動しやすい環境の整備

- 車以外での移動を促進するため、公共交通の利便性の向上に取り組みます。
- 安心して移動するための環境の整備に取り組みます。

政策2 暮らして心地よい生活環境の整備

- 快適に暮らすための生活環境の形成に取り組みます。
- 楽しく外に出る人を増やすため、歩いて楽しい景観の形成に取り組みます。

<ながくて未来の物語 イメージイラスト>



基本目標 7 職員が飛び出すまち

これからの超高齢・人口減少社会に対応するには、市民の方にもまちづくりの一員としての意識を持ってもらう必要があるため、職員が地域に飛び出し、地域を深く知ったり、市民同士をつなげる役割を担うことにより、市民主体の取組を支える市政運営を目指します。

また、職員が市民の暮らしを支えるために、庁内の関係課が連携し、ときには既存の枠にとらわれず、社会情勢の変化に柔軟に対応できる市政運営を目指します。

ながくて未来の物語 ～この分野での 2028 年の理想の姿を描いた物語～

2028 年。今、私の勤める長久手市役所では、「まち全体が職場だ！」という意識が職員に根付いている。このまちは、いろいろな課の職員がまちに飛び出したり、既存の枠から飛び出したような施策に取り組んでいることから、「職員が飛び出すまち」と言われている。

いろいろな課の職員が、時間をつくって、意識的にまちに出てみたり、公共施設を回ったりしている。「〇〇さ～ん！」と、まちで呼び止められることが多くなったね、よく同僚とも話している。逆に、たいした用事がなくても、市民の方が市役所に気軽に訪ねてくれるようになり、市民と「顔の見える関係性」が築けてきている。「課題は、現場にある」とよく言われるけど、こうしてまちに出たり、市民の方と話をすることで、課題も、その解決の糸口も見つかるのだあ、とまちに飛び出すようになってようやく気がついた。

また、真の問題解決には、従来のやり方や既存の枠にとらわれていたり、一つの課だけで対応しようとする、うまく行かないことが多いということも、まちに出て対話して市民と向き合うことで分かってきたことだ。既存の枠を飛び出し、自分の課を飛び出し、他課やそして他市町とも連携することの必要性にも気づけた。いろんな事に気付き、実践し、うまくいかないことに悩み、考え、そんな日々を過ごすうちに、どんどん長久手が好きになってきている。好きだからこそ、もっといいまちにするためにはどうすればよいか？を考え、積極的に業務を見直し改善に努めたり、もっといい職員になりたいと研修にも視察にも積極的に行くようになった。

「元気な職員がいるまちは元気になる！」そう信じて、今日も飛び出そう！

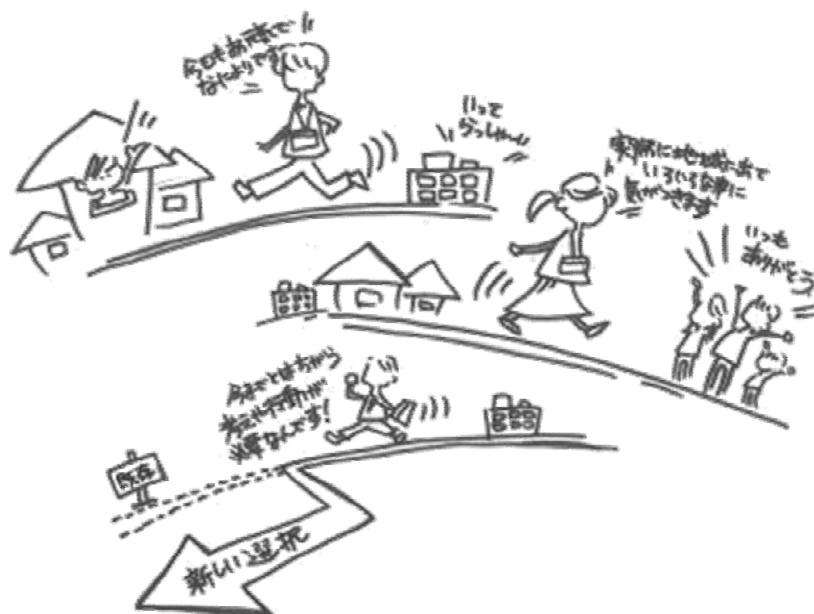
政策1 柔軟な市政の運営

- 地域のニーズを把握し、様々な切り口で解決策を考えられるようにするため、地域に飛び出し、また既存の枠に縛られない職員の育成に取り組みます。
- 変化の激しい時代に柔軟に対応するため、挑戦しやすい仕組みづくりに取り組みます。
- 幅広い知見を本市のまちづくりに活かすため、他自治体や民間企業との連携に取り組みます。

政策2 市民から信頼される市政の運営

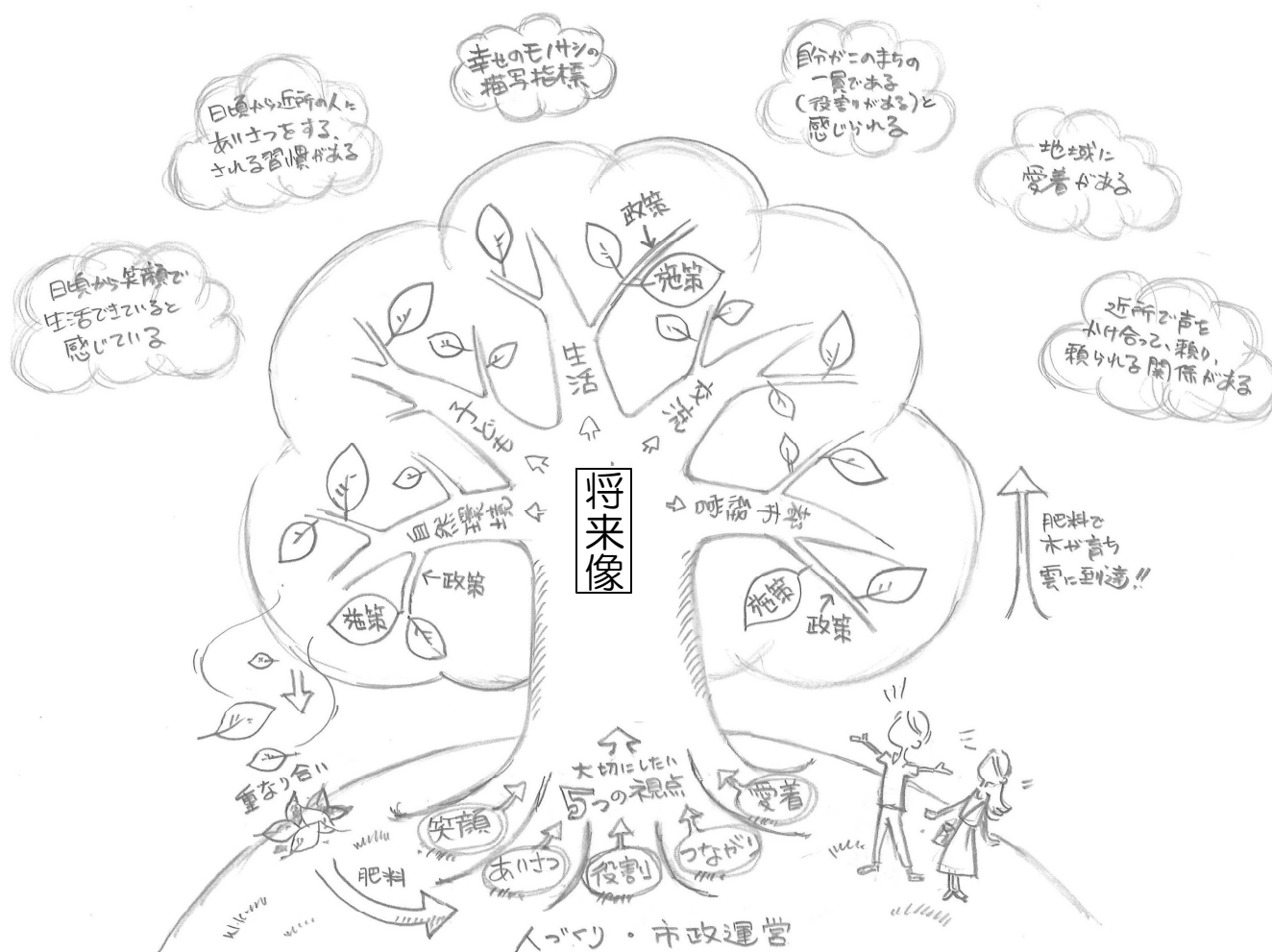
- 将来の税収減を見据え、計画的な財政運営に取り組みます。
- 市民から信頼される市政運営を行うため、行政情報の見える化の推進に取り組みます。
- 将来の人口減少を見据え、公共施設の計画的な管理に取り組みます。
- 限られた資源を最大限活かし、市民サービスの向上に取り組みます。

<ながくて未来の物語 イメージイラスト>



- このながくて未来図おける「将来像」「7つの分野」「政策」「施策」といった全体の体系や、「5つの大切な視点」「幸せのモノサシ」は、大きな木に表すことができます。
- 木の幹は、将来像である「〇〇〇」で、それを支える土台が7つの分野の中の「人づくり」と「市政運営」、幹から生える太い枝は、7つの分野の中の「子ども」「自然環境」「生活」「交流」「都市経営」となります。
- 太い枝から生える細い枝が「政策」、細い枝に実る葉っぱは「施策」となります。
- また、7つの分野それぞれの施策を進める上で、重要となる「5つの大切な視点」は、根っことなります。
- 葉っぱが落ち他の葉っぱと重なりあうことで、施策ごとの連携を表します。
- 重なり合った葉っぱは肥料となり、根っこでその肥料を吸い上げることで、幹も枝も大きく育ち、「雲」で表す「幸せのモノサシの描写指標」に到達していきます。

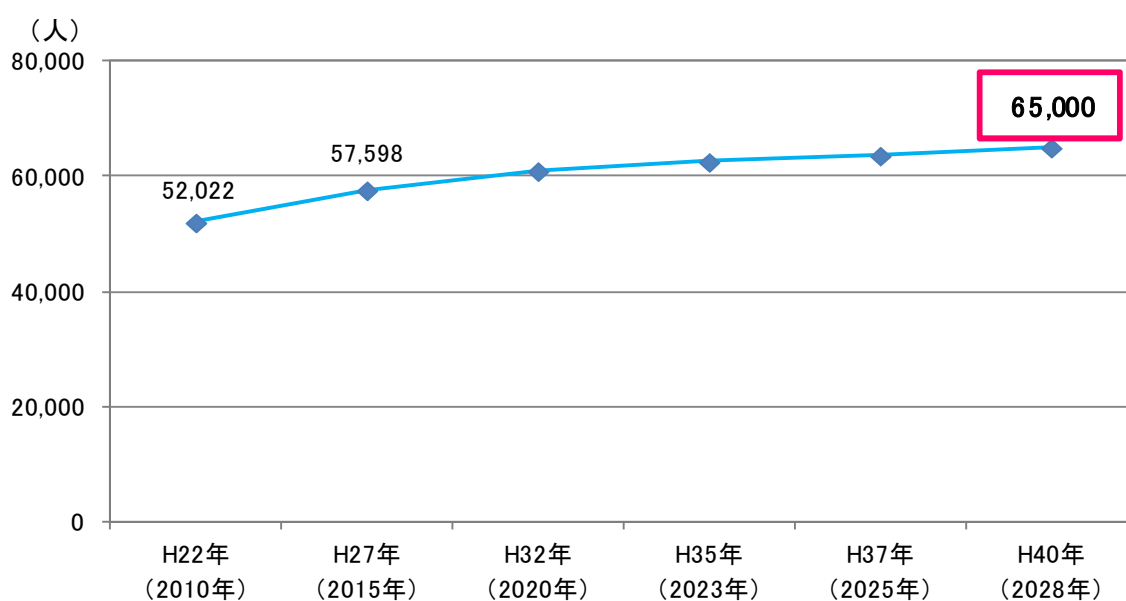
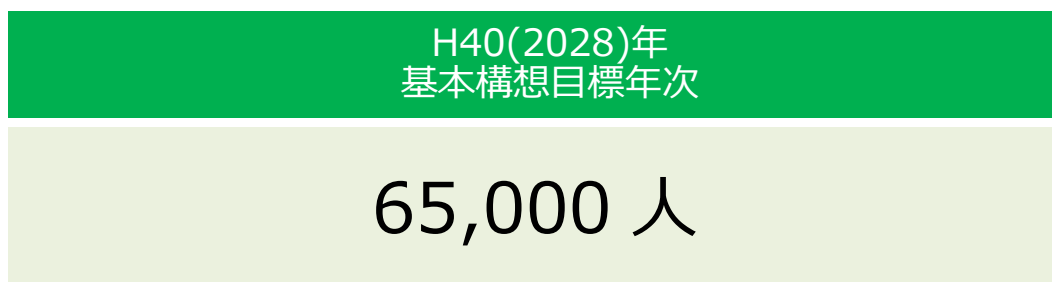
※「幸せのモノサシ」についての詳細は「第〇章 計画の推進に向けて」で記載します。



3 人口フレーム

全国的に人口減少が進む中、本市においては人口増加が進むことが予測されますが、それでも2040年頃をピークに人口減少に転じていきます。今後、来る人口減少社会に備えるため、将来像である「〇〇〇」の実現を目指し、市民主体のまちづくりの取組を進めていきます。

これらの取組を推進することで、2028年における人口フレームを65,000人と設定します。



【図● 人口フレーム】

4 土地利用構想

本市の土地は、現在及び将来における市と市民の限られた貴重な資源であるとともに、市民の生活と生産活動を支える共通の基盤です。したがって、以下に示す基本理念に基づいて総合的かつ計画的な土地利用を図ります。

基本理念

- 公共の福祉の優先
- 持続可能な都市づくりの推進
- 自然環境の保全・活用、緑の創出
- 健康で質の高い生活環境の確保
- 安全な暮らしの確保
- 文化的な市民生活の創造

土地利用の基本方針

■ リニモを中心としたまちづくりを推進する土地利用の展開

- 新たな市街地の拡大は行わないことを基本としつつ、当面の人口増加に対応するリニモ長久手古戦場駅やリニモ公園西駅周辺における事業の継続

■ 都市機能が集積する複合的な拠点形成に資する土地利用の展開

- 市役所周辺において、防災拠点としての機能を充実するため老朽化した市庁舎を建て替えるとともに、高齢者をはじめ多様な世代が健康に暮らすため健康づくりセンターの機能を備えた総合体育館の整備することで、都市機能が集積する複合拠点の形成に向けた土地利用を展開

■ 住み続けられる持続可能な土地利用の展開

- 日常生活圏においては、増加が見込まれる高齢者をはじめ多様な世代が歩いて暮らせる環境を整備
- 土砂災害危険箇所等の災害発生が懸念される地域では、安全に配慮した適切な土地利用

■ 本市の魅力である自然環境の保全・活用、緑の創出

- 東部丘陵をはじめとする森林を積極的に保全、市民が楽しさを発見できる里山として活用
- 河川の植栽整備等により緑の創出
- 農地の積極的、政策的な保全、活用による、市民をはじめ多くの人が自然に触れあえる場となるような土地利用
- 既成市街地においては、公園や道路等の公共空間の緑化推進

■ 歴史的資源の景観保全に向けた施策の検討

- 長久手古戦場、御旗山及び色金山等の国指史跡が分布しており、これら歴史的資源により形成される眺望景観の保全に向けた施策の検討

土地利用構想図

